

学齡期の支援に必要なこと

～通級指導教室での実践から見えてきたこと～



横浜市立
山向小学校

CoLABO 教室

岡田 克己

私からの内容

- ①他業種連携の在り方
～教育と医療の合同事例検討会から～
- ②小学校通級指導教室を利用した
～16歳～26歳への追跡調査から～
- ③学齢期における支援に必要なこと
～コラボ教室の取組紹介～

横浜市における 教育と医療の合同事例検討会

- ① 横浜市には、**約30年前から**行っている「教育と医療の合同事例検討会」がある。
- ② 参加者は、**通級指導教室担当者100名。医療関係者100名（ドクター、ワーカー、心理など）**。司会を教育委員会事務局の指導主事やワーカーが行ってきた。
- ③ **一事例を取り上げ**、担当となる**担任、通級、心理、ドクター**など、それぞれの立場から報告をし、その事例に対する適切な指導・支援について検討する。

→ 4方面別の合同事例検討会実施や各通級指導教室毎のケース会議の実施へ広がりを見せる。

→ 近年では、事例が、目立つ適応困難ケースから、過剰適応ケース、中学校ケース、未療育ケース、不登校ケースなど、多岐にわたってきた。

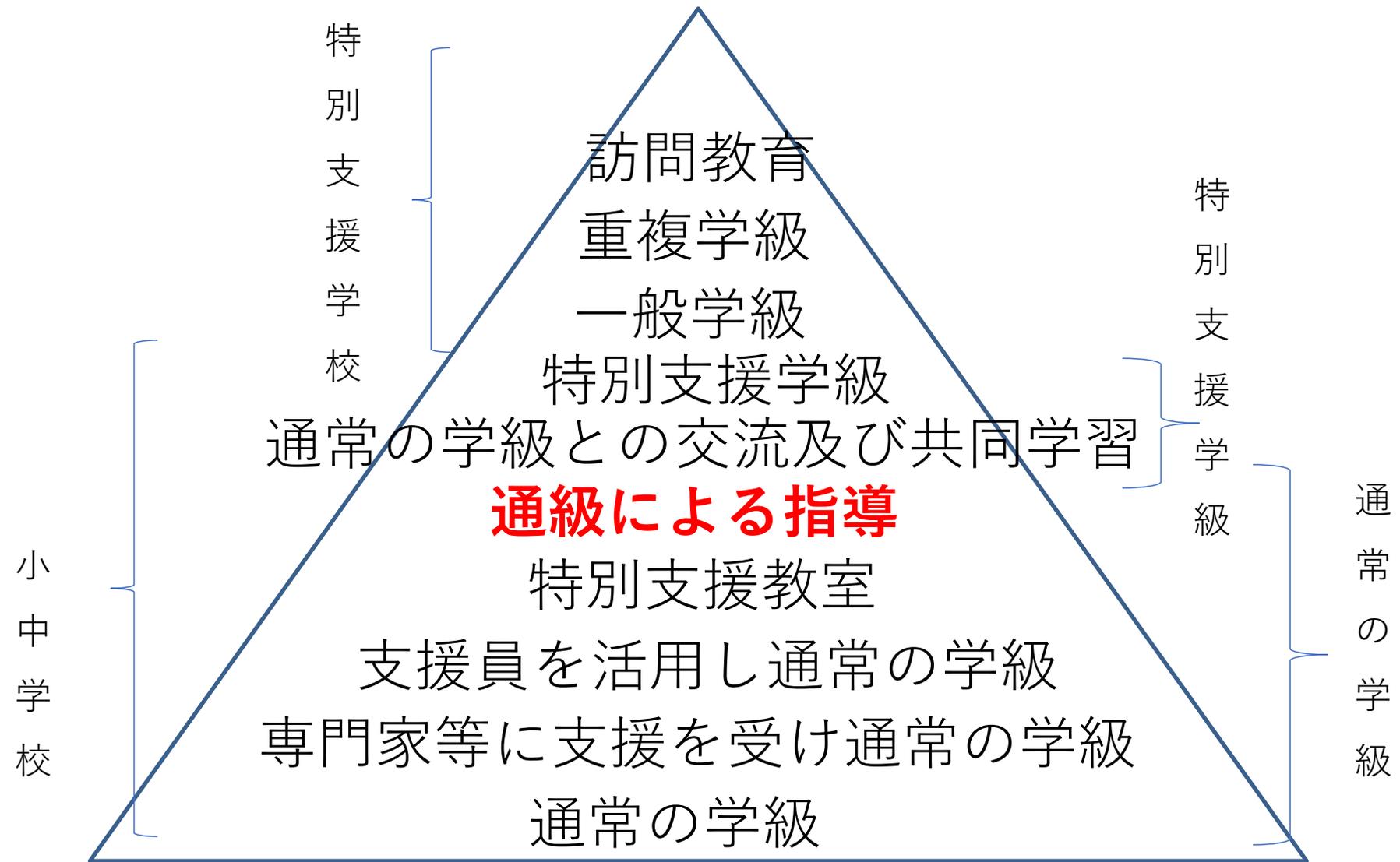
私が提案してきた3事例

- 1、人の2倍失敗の多い、ADHDとASDの特性のある4年生男子
→ダブルの特性の見立て、環境調整と医療連携
- 2、生きづらさを抱える5年生男子 ~LD、ADHD、ASDの薄い特性が重なる生きづらさ~
→未診断のケースをどう連携して支援するか
- 3、「ぼくバカなのかな」と悩む4年生男子LD
~自分らしく楽しく学ぼう~
→LDを医療とどのように連携支援するか

学齡期の他業種連携 裏話 5

- 当初、教育側が医療側の助言をもらうことが多かったが、**集団と個の視点の支援の違い**から、明日から役に立つ情報や支援にならないことがあった。
- **教育がメイン**となる研修として位置づけることで、対等の立場で情報交換、意見交換ができるようになってくる。
- **ドクターの診断合戦**のような意見交換で終始することがあり、**各分野の用語の違い**、から教育側（特に学級担任）がわからない会となることがあった。
- 学齡期支援で、**困っているのは担任と保護者になりがち**。本人の行動面の課題ばかり検討し、**本人のニーズや内面**の情報や支援が不足しがちであった。

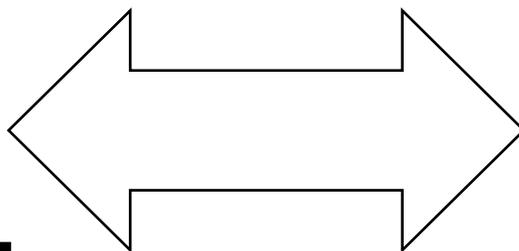
「連続性のある多様な学びの場」の保障 (横浜市におけるイメージ)



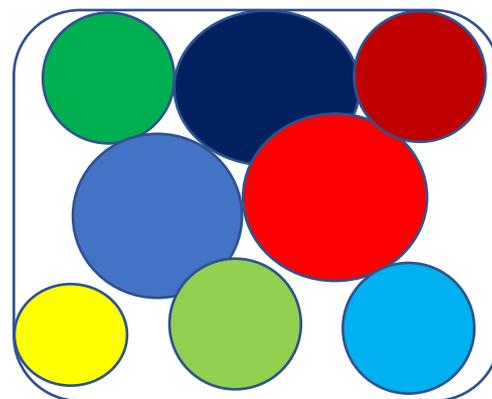
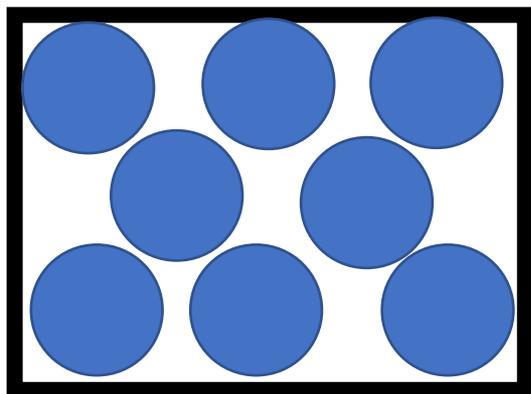
学校における集団性と個別性

集団適応を図ることと個性を育むこと

集団性



個別性



◎ 集団の中の「一人一人」の視点

通級による指導の対象

平成18年4月「学校教育施行規則の一部を改訂する省令」

言語障害者

自閉症者（分類）

情緒障害者（分類 ※心因性）

弱視者

難聴者

学習障害者（新）

注意欠陥多動性障害者（新）

肢体不自由者

病弱者及び身体虚弱者

通級による指導の教育課程

○ 自立活動の指導 6区分 26項目

「健康の保持」 「心理的な安定」

「人間関係の形成」 「環境の把握」

「身体の動き」 「コミュニケーション」

○ 教科の補充指導

認知的なアンバランスさや、興味関心のかたよりによる学習内容の定着の差など、学習のつまづきに応じた指導を行う。

通級児童生徒の割合は全体の 0. 9 3 ・ %

○平成27年度、小中学校児童生徒数

9 6 1 6 5 5 3 人 (小6425754、中3190799)

○平成27年度、通級を受けている児童生徒数

9 0 2 7 0 人 (小80768、中9502)

平成27年文科省調べ

障害種の内訳

1位	3 5 3 3 7	言語障害
2位	1 4 6 0 9	注意欠陥多動性障害
3位	1 4 1 8 9	自閉症
4位	1 3 1 8 8	学習障害
5位	1 0 6 2 0	情緒障害
6位	2 3 2 7	難聴、弱視、肢体不自由 及び病弱・身体虚弱

平成27年文科省調べ

通級による指導 近年の傾向¹²

- 過去3年間で児童生徒数は15.9%増加
- 通級指導時間は、
週1単位時間が52.1% 週2単位時間が30.8%
- 指導形態は、
学習障害者及び注意欠陥多動性障害の児童生徒は、
自校通級の方が多い。
- 過去3年間で設置校数は11.3%増加。
- 小・中13.2%の学校で通級による指導を行っている。

平成27年文科省調べ

横浜市の小中学校の特別支援教育の特色

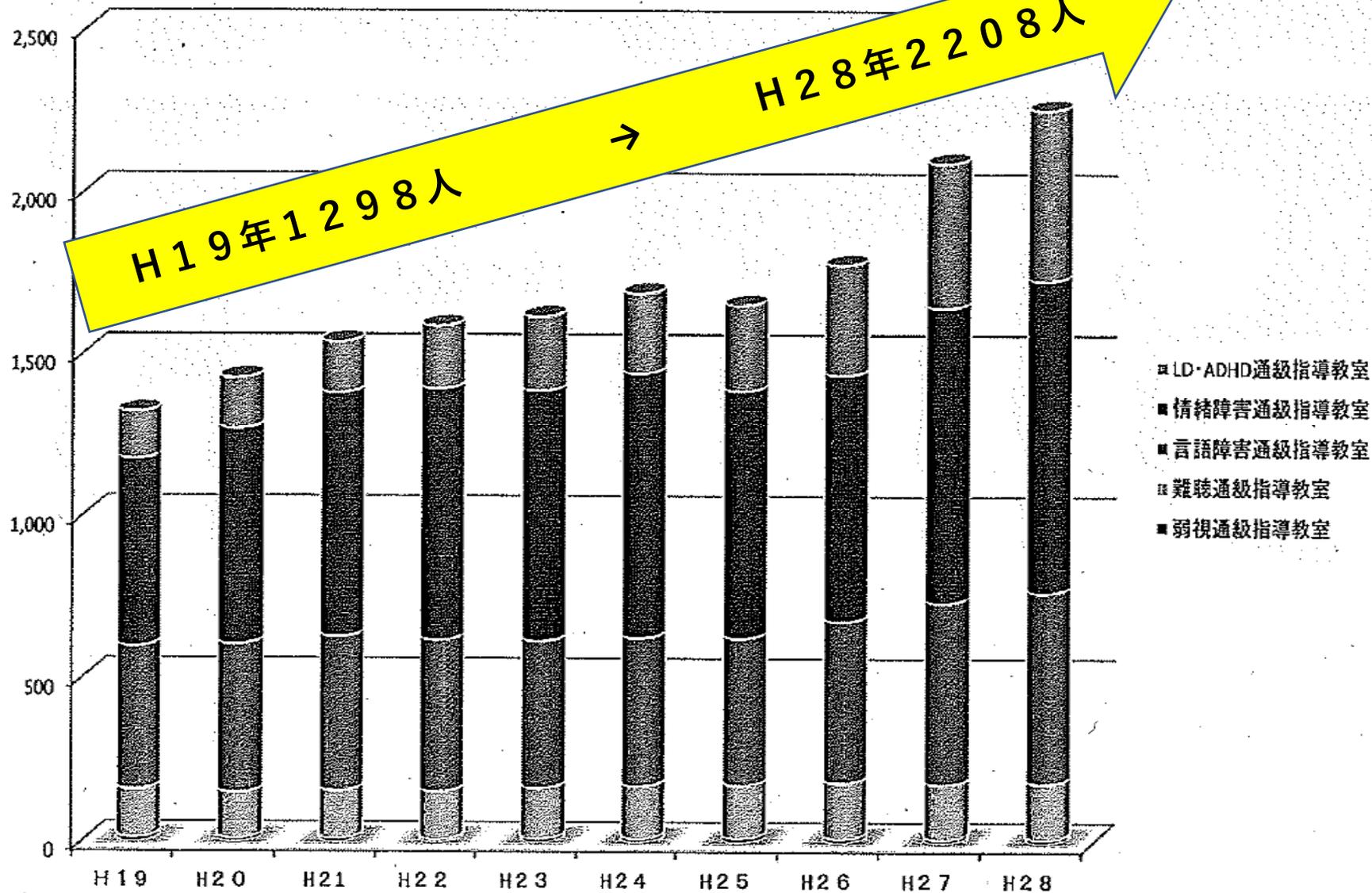
<プラス>

- **児童支援専任教諭**（コーディネーター兼務）全校配置
- **特別支援教育コーディネーター**組織化
- **特別支援教室** 全校設置完了、指導の充実を図る
- **教育と医療**の連携の充実
- **SC、SSW**の強化
- **横浜型センター的機能**強化（通級、療育、特支）

<マイナス>

- 特別支援教育対象の子どもが年々増加
- 特別支援教育総合センター4か月待ちのパンク状態
- 通級指導教室、個別支援学級の体制整備
- 一般学級における境界知能の子の支援体制整備

通級指導教室利用児童生徒数



[小学校]			設置率	設置校数	児 童 数	在籍内訳		
年度	学校総数	校数				知的	自閉症・情緒	その他
平成 19 年度	(学校総数 347 校)		99.7 %	346	2,645	899	1,737	
平成 20 年度	(学校総数 346 校)		99.7 %	345	2,860	893	1,956	
平成 21 年度	(学校総数 346 校)		100.0 %	346	3,106	911	2,185	
平成 22 年度	(学校総数 345 校)		100.0 %	345	3,235	1,017	2,210	
平成 23 年度	(学校総数 345 校)		100.0 %	345	3,389	1,092	2,288	
平成 24 年度	(学校総数 344 校)		100.0 %	344	3,572	1,164	2,398	
平成 25 年度	(学校総数 342 校)		100.0 %	342	3,842	1,349	2,482	
平成 26 年度	(学校総数 341 校)		100.0 %	341	4,105	1,658	2,435	
平成 27 年度	(学校総数 341 校)		100.0 %	341	4,335	1,963	2,359	
平成 28 年度	(学校総数 341 校)		100.0 %	341	4,671	2,241	2,416	

※ 新井小学校桜坂分校除く

[中学校]			設置率	設置校数	生 徒 数	在籍内訳		
年度	学校総数	校数				知的	自閉症・情緒	その他
平成 19 年度	(学校総数 145 校)		94.5 %	137	1,008	499	504	
平成 20 年度	(学校総数 145 校)		94.5 %	137	1,088	517	567	
平成 21 年度	(学校総数 145 校)		94.5 %	137	1,187	534	648	
平成 22 年度	(学校総数 146 校)		94.5 %	138	1,304	568	731	
平成 23 年度	(学校総数 148 校)		94.6 %	140	1,398	648	746	
平成 24 年度	(学校総数 148 校)		95.9 %	142	1,452	644	806	
平成 25 年度	(学校総数 146 校)		98.6 %	144	1,500	649	851	
平成 26 年度	(学校総数 146 校)		98.6 %	144	1,616	751	863	
平成 27 年度	(学校総数 145 校)		98.6 %	143	1,723	846	873	
平成 28 年度	(学校総数 145 校)		99.3 %	144	1,804	929	870	

※ 新井中学校桜坂分校・南高付属中除く

就学措置について

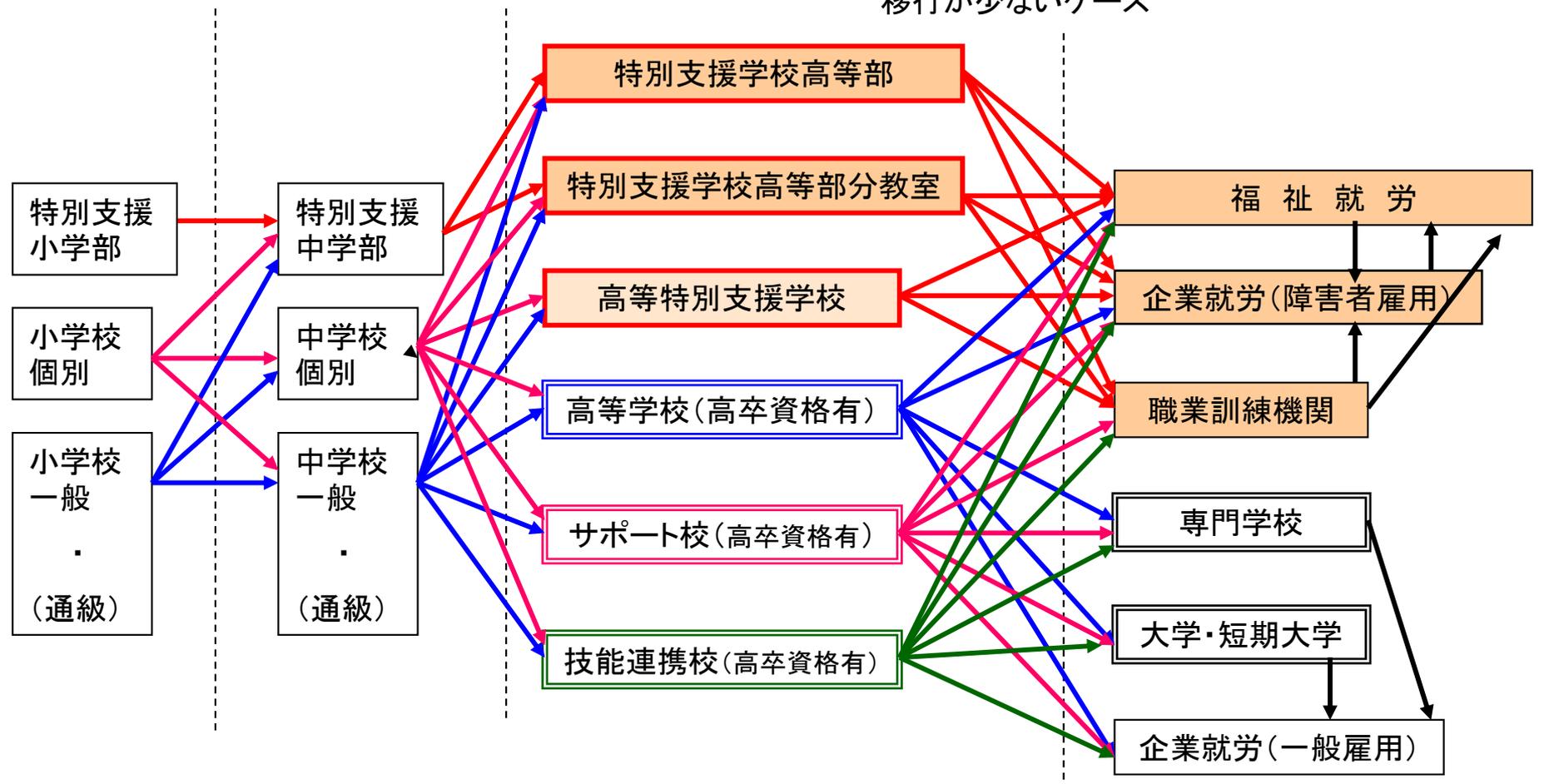
- ① 特別支援学校（県立は養護学校）
（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）
- ② 個別支援学級
（知的障害、自閉症・情緒障害、弱視）
- ③ 一般学級 + 通級指導教室
（弱視、難聴、言語障害、情緒障害、LD・ADHD）
- ④ 一般学級（一般学級留意を含む）

①②③の就学、入級等については、
すべて特別支援教育総合センターでの
判断を受けることが必須（平成22年度より）

知的障害・発達障害のある方の教育の場

<主な進路先間の進学や移行>

※1 矢印がないところは、制度上、進学や移行ができない、または困難なケースもしくは、現状では進学や移行が少ないケース



※2 法律や制度、募集要項等の変更により、進学や移行状況が変化することもある。

→情緒障害個別支援学級の増加要因

高機能自閉症児者への認定について

□横浜市療育手帳制度実施要綱第4条第3項

- ・ 知能指数が非該当の場合であっても、**判定機関の長が特に必要と認めた場合は、軽度（B2）と認定できる。**

□第4条第3項の運用基準

- ・ 知能指数が、境界線級であって、かつ自閉症の診断を受けた児者について、判定機関（児童相談所又は障害者更生相談所）の長が、特に必要と認めた場合をいう。
- ・ 「知能指数が境界線級」とは、標準化されたビネー式知能検査で、**知能指数が76から91を**いう。
- ・ 平成13年11月16日から施行。

横浜市療育手帳制度と教育的判断 19

障害の程度の判断（福祉）

障害の程度の判断（教育）

非該当	C	前各号に該当しない
軽度	B 2	5 1 ~ 7 5 (※)
中度	B 1	3 6 ~ 5 0
重度	A 2	2 1 ~ 3 5
最重度	A 1	~ 2 0

標準	一般級 通級 個別級 (情緒)	8 6 ~ (9 1 ~)
境界	一般級 個別級 (情緒)	7 6 ~ 8 5
軽度	個別級 (知的)	5 1 ~ 7 5
中度	個別級 (知的) 特支校	2 1 ~ 5 0
重度	特支校	~ 2 0

小中学校における支援体制²⁰

3 観点

① **個**に応じた指導の工夫

② 校内**チーム**体制

③ **外部**連携 (保護者も含む)

教師の専門性の土台は「関係づくり」



教師の求められる専門性

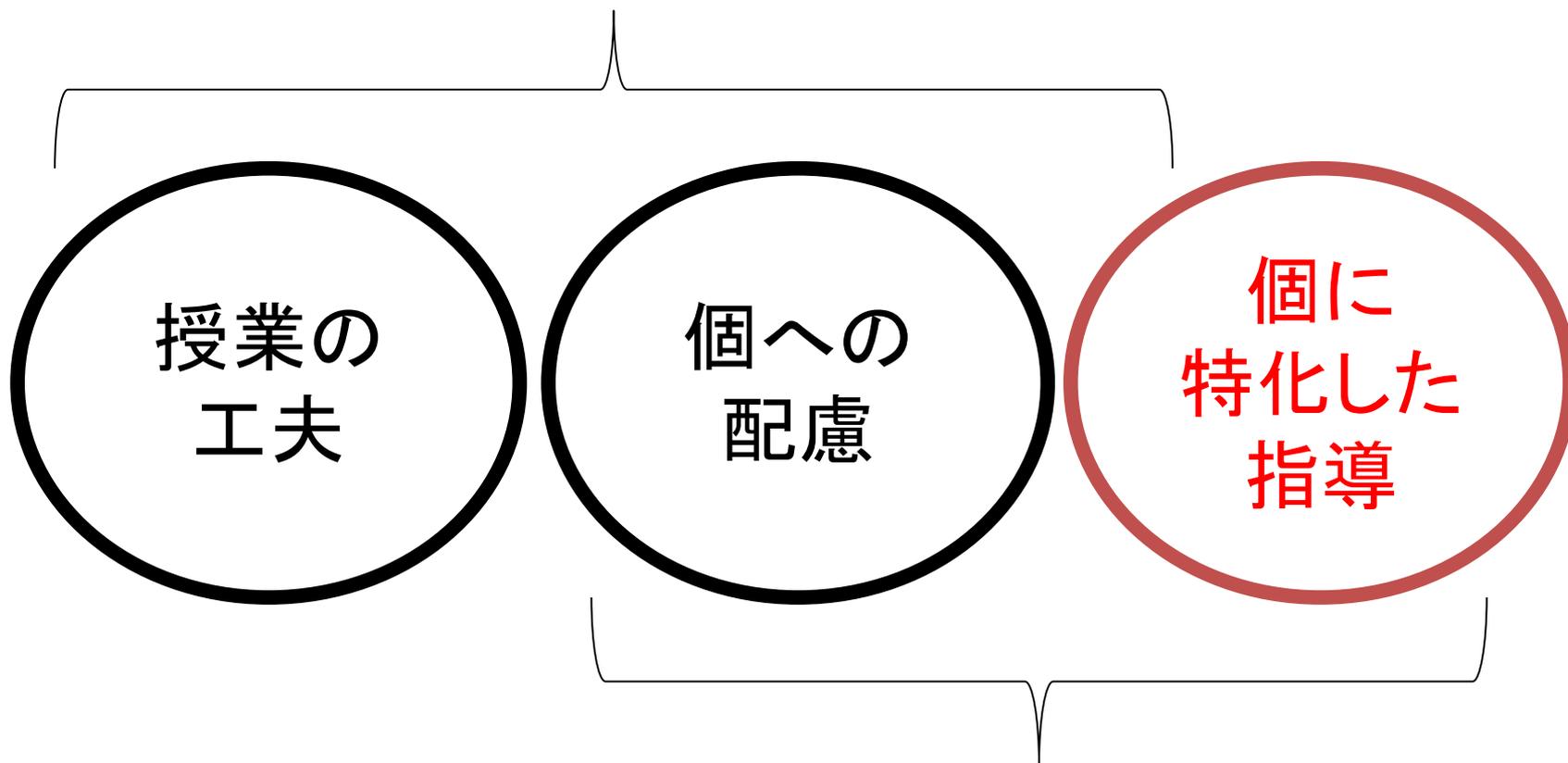
授業づくり

学級づくり

関係づくり
(児童生徒理解・指導)

授業のユニバーサルデザイン

障害の有無にかかわらず、子どもに「合理的に配慮する」



障害のある子に対する「合理的配慮」
(文部科学省)

発達障害特性と配慮

LD . . . 聞く・話す・読む・書く・計算する・推論

⇒ **学び方に配慮する**

ADHD . . . 不注意・多動性・衝動性

⇒ **刺激量に配慮する**

ASD . . . 社会性、コミュニケーション、こだわり

⇒ **構造化に配慮する**

愛着、情緒面に関する . . . 心理面、情動面

⇒ **関係性に配慮する**

○物理的構造化

「ここではなにをやるのか」わかりやすくする

○時間的構造化

「今何をやるのか」わかりやすくする

○活動内容や順序の構造化

「何を」「どの手順で」やるのか明確にする

○指示などの視覚化

必要な情報を文字や絵などで示す

通級指導時のめあて
「授業中は、いすに座る」
「わからないときは質問する」

- 1、めあての確認
- 2、漢字の部首しらべ
- 3、計算ドリル 4 2 ページ
- 4、トランプゲームダウト
- 5、ふりかえり

授業は、子どもが「わかった」「できた」の
成功体験・ほめられ体験をすることが大事

主に通級による指導のねらい

(※もちろん個々に違います)

学年	必要な力	配慮ポイント
低学年	一斉指示で行動する。	集団のルール 座る、聞く、書く 言葉のやりとり
中学年	グループの友だちと一緒に活動する。	コミュニケーション 話し合い 友達とのかかわり
高学年	自分の特性を知り、 集団の中で 落ち着いて過ごす。	感情認識と表現 自己理解

人と関係性づくりは **1対1が基本**

子どもとの関係性を育むための基本

- ◎ **近くにいる** こと
- ◎ 子どもを **見る** こと
- ◎ 子どもの **話を聴く** こと

新学習指導要領
「一人一人」の
文言が多数！！
小学校総則編解説 59回

- ◎ 人との関係づくりは、**個別性**→**集団性**へ
- **コミュニケーション**を支援する

事例1 Aさん
自分に合う学び方を学ぶ



LDのある4年生

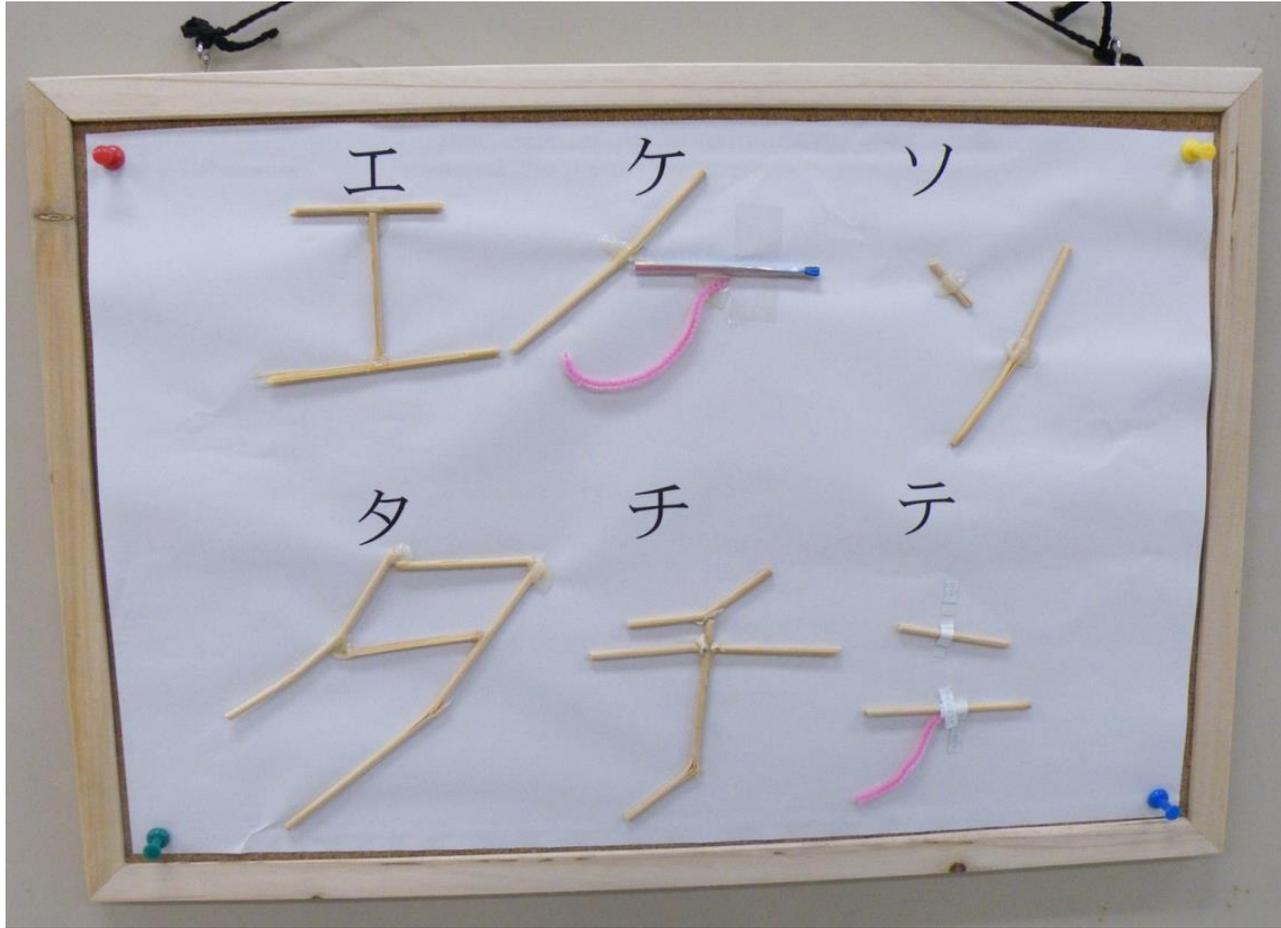
ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
ン	ワ	ラ		マ	ハ		タ	サ	カ	ア
	(い)	り	(い)	み	ひ	に	ち	し	き	い
								シ	キ	イ
	(う)	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
			ユ		フ		ツ	ス	ク	ウ
	(え)	れ	(え)	め	へ	ね	て	せ	け	え
						ネ		セ		
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
									コ	オ

カタカナ50音表

46文字中22文字

- ① 自分にあう文字学習方法を身につける。
- ② 興味関心（工作課題、運動操作）を活かし、カタカナ50音文字の読み書きを習得する。
- ③ ゲーム性のある活動を通して、漢字の部首の意味や構成分解を理解する。

オリジナルカタカナ作品づくり³¹



様々な素材（モール、ストロー、靴ひも、粘土、竹ひご等）を使い未習得のカタカナ文字作品を作った。作品は額に入れ飾りつけた。

自分に合う漢字学習方法を³² 身につけよう



部首トランプ



あわせ漢字ビンゴゲーム

繰り返し書き取るだけでなく、自分に合った学習方法をみつけるため、**様々な学習方法**を通して漢字学習を行う。

自分に合う学習方法の模索³³

- 自分で学習方法を探して学習に取り組めるようになった。
(ラップリズム、意味づけ、動作化等)
- 本児の変化
「先生たちが工夫してくれるから、僕もいい方法を考えて勉強したい。」
「将来は料理人になりたいから、覚えづらい文字を料理にして食べて覚えるのも面白い。暗記パンみたいに。」

在籍校との連携（合理的配慮）³⁴

「宿題」

量でなく時間で取り組みを評価。
30分で取り組める1/4の量。

「ノート記入」

板書するところを枠で囲む。
目安は5割程度。

「漢字テスト（毎週）」

100点満点中60点を合格ラインにする。

卒業文集でパソコン (合理的配慮例)

■さん 卒業文集にむけて下書き 11月19日

7月6日から7日に、日光に修学旅行に行きました。六年生みんなで行きました。東照宮に行ったことが一番の思い出に残りました。特に、三猿での思い出が心に残っています。

一日目の朝に、日光修学旅行用の専用電車に乗って行きました。電車の中では、みんなでお弁当を食べた後に、おかしを食べました。その後に、ダイヤモンドゲーム、ルーレット、ゾロ目スゴロク、フォックスアンドヘンズなどのボードゲームを、■さんとやりました。とても面白かったです。

まずは、東照宮に行きました。僕が一番驚いたのは、東照宮五重塔のある場所の標高が、東京スカイツリーとほぼ同じ高さだと知ったことです。その時は、一緒にいた■さんと■さんと、「あれ、やばくない。」と、びっくりしました。まず、眠り猫を見学しました。眠り猫の裏側にスズメがいたのを聞いて、その理由が平和の象徴だと知ったので、「いろんな思いが込められているんだな。」と思いました。その後、鳴き竜のところでグループ行動になり、三猿のところへ行き、記念写真を撮りました。■さん、■さんと三人で、三猿で有名な見ざる聞かざる言わざるのポーズをして撮りました。その後に、東照宮をまわっていたときに、有名なプロサッカー選手がいて、びっくりしました。

ホテルでは、廊下でお茶を飲むときに、■さんたちと面白い話をして、お茶を吹き出してしまったのが、楽しかったです。ホテルの部屋では、ウノとプロレス写真ごっこをして過ごしたのが、面白かったです。夕食は、投票で決めたメニューのステーキをおいしく食べました。僕は、ご飯を8杯ぐらい食べて、美味しかったです。ちよつと苦しくなりました。夜のナイトウォークが雨で中止になったのはちよつと残念でした。お地藏さんが百体あるところを通って、先生たちがおどろかしてくれることになっていたので、やりたかったです。その関係で消灯時間が、三十分も早くなったので、より残念な出来事でした。夜、お風呂に入る前に、ホテルのお土産売り場で、面白い物をしました。友だちの■さんと■さんとおそろいの龍のストラップを買いました。それから、白刀も買いました。

二日目は、大雨の中、華厳の滝に行きました。滝の迫力がすごくて、湯気のような霧がたつていて、まるで熱そうに見えました。その後、富弘美術館に行きました。ここでは、作者の星野さんが、後頭部を打ってしまったことで、手足が不自由になり、口で筆をくわえて絵と詩を描いている話を聞き、感動しました。その後に、日光つたやで、カレーをたくさんお替わりをして食べて、お店の人に「もう、ちよつと...。」と、止められてしまいました。つたやの下のお土産屋さんで、残りのお金が三十円しか残っていませんでしたので、あめ玉一つを買いました。帰りの電車では、おかしを食べたり、ダイヤモンドゲームをしたりして、満喫した日光修学旅行を楽しく終えました。中学校でも、もっと友達と友情を深められたらいいなと思うので、小学校六年間一緒に学んできた友達を、これからも大事にしていきたいです。

質問紙調査

- ◆対象
 - ①通級群・・・横浜市立小学校情緒障害通級指導教室を利用した16歳から26歳の187名
 - ②一般群・・・18歳から26歳までの大学生141名
- ◆内容

<ul style="list-style-type: none"> ①趣味や余暇の過ごし方 ②得意なこと、苦手なこと ③性格・特徴について ④学校生活について ⑤通級指導教室について 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥現在の生活について ⑦ストレスへの対処について ⑧相談者、理解者について ⑨自分について ⑩将来の夢、未来の姿
---	--
- ◆その他
 - ①実施時期・・・平成24年7月～9
 - ②方法等・・・質問紙を郵送により配布および回収

インタビュー調査

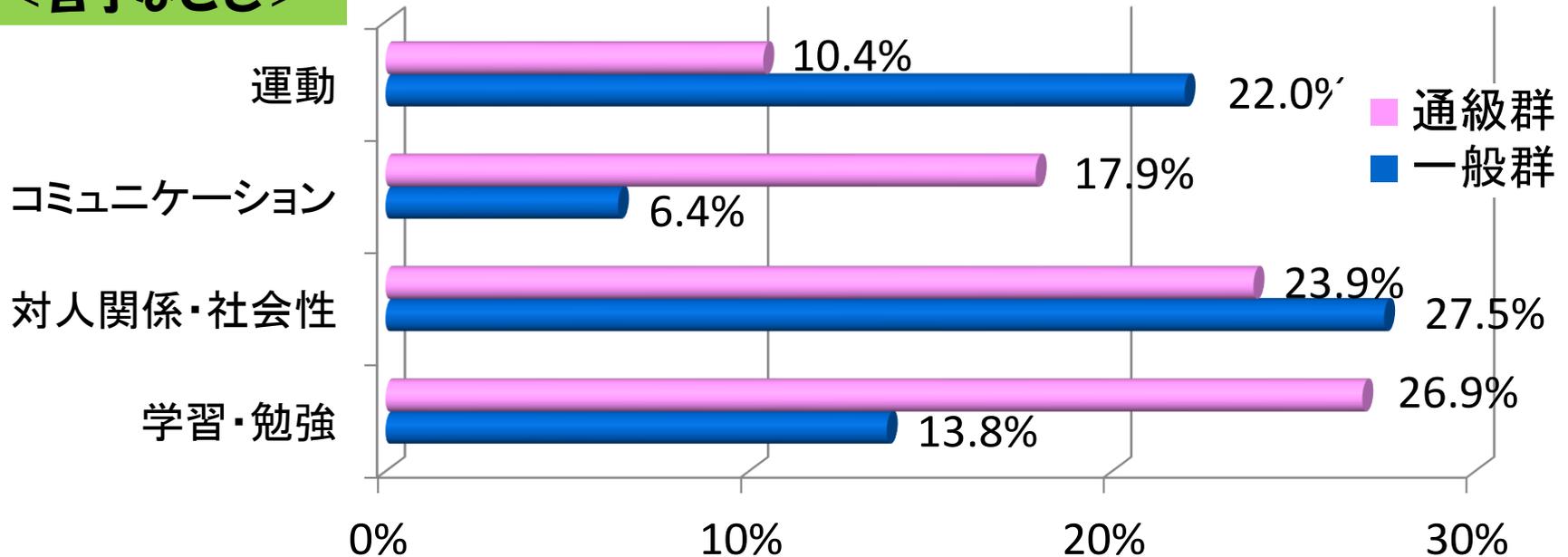
- ◆対象：質問紙調査により、「インタビューに応じてもよい」と回答した者のうち性別、年齢を考慮して10名を選定
 <内訳>：高校生男子2名 大学生男子2名女子各2名 社会人男子4名
- ◆方法：対象者の指導を担当していた者2名が半構造化面接により実施。
- ◆内容：質問紙調査の回答に基づいた具体的内容

得意なことと苦手なこと

得意なこと	あり・・・通級群:59.5%	一般群:60.3%
苦手なこと	あり・・・通級群:83.8%	一般群:80.0%

両群間で
大きな差は
見られない

<苦手なこと>



- 通級群・・・「コミュニケーション能力」の弱さが
「対人関係・社会性」の弱さ、苦手さに影響している可能性
- 一般群・・・「対人関係・社会性」の苦手さは、「緊張」「ネガティブに考える」などの自分の性格、他者からの視点を意識した理由

自分の性格・特徴についての認識³⁸

(通級群の過半数が挙げる項目と一般群との差が顕著な項目)

⑦夢中になると切替が難しい

⑥初発や変更は落ち着かない

⑫些細なことにも不安・緊張

⑤約束やルールに厳密な方だ

⑩忘れ物やなくし物が多い

⑧思いついたらすぐに行動する

⑨気が散りやすい方だ

④気持ちや空気が読めない方だ

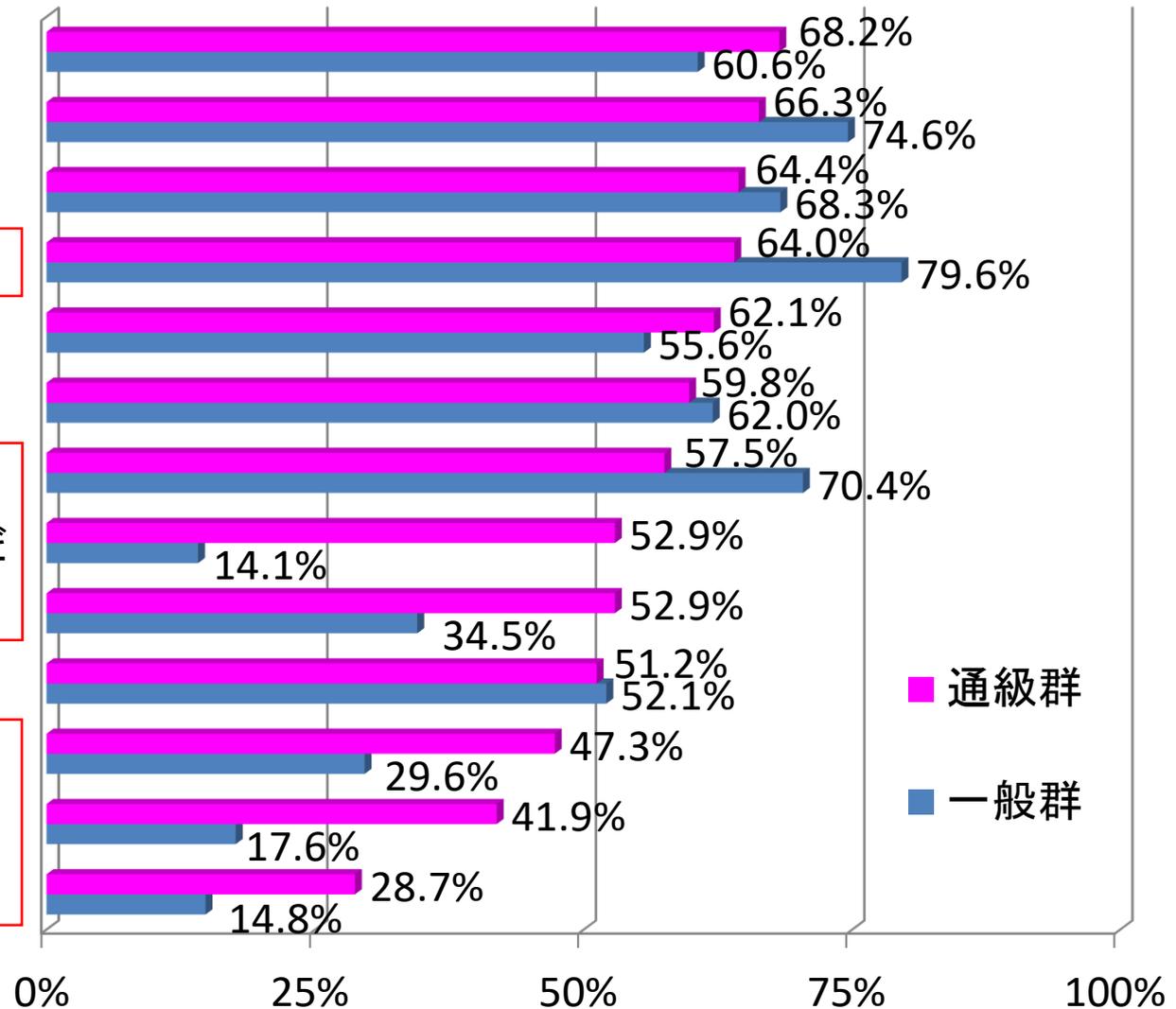
①自分の話をする方が好き

⑪何をやるにも自信がない

⑬感情をコントロールしにくい

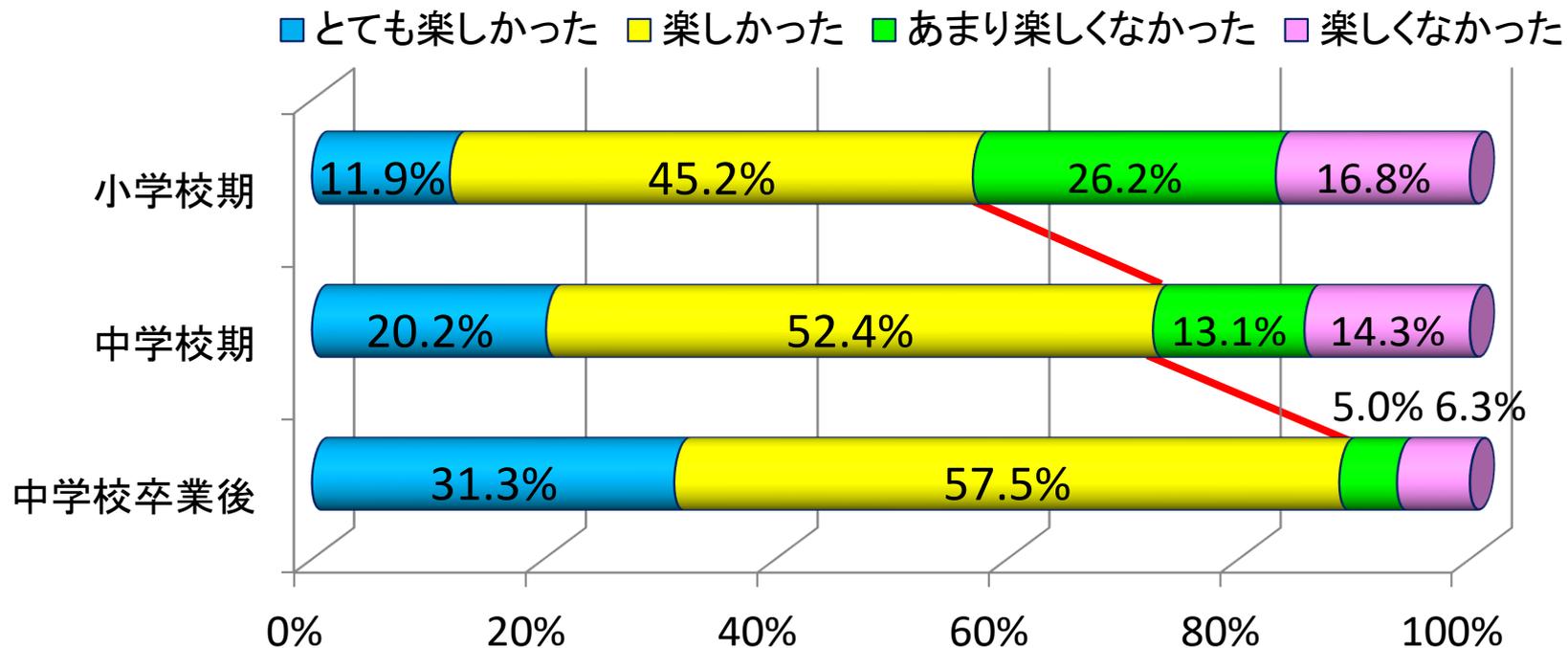
②冗談や皮肉がわからない

⑮アドバイスを受け入れにくい

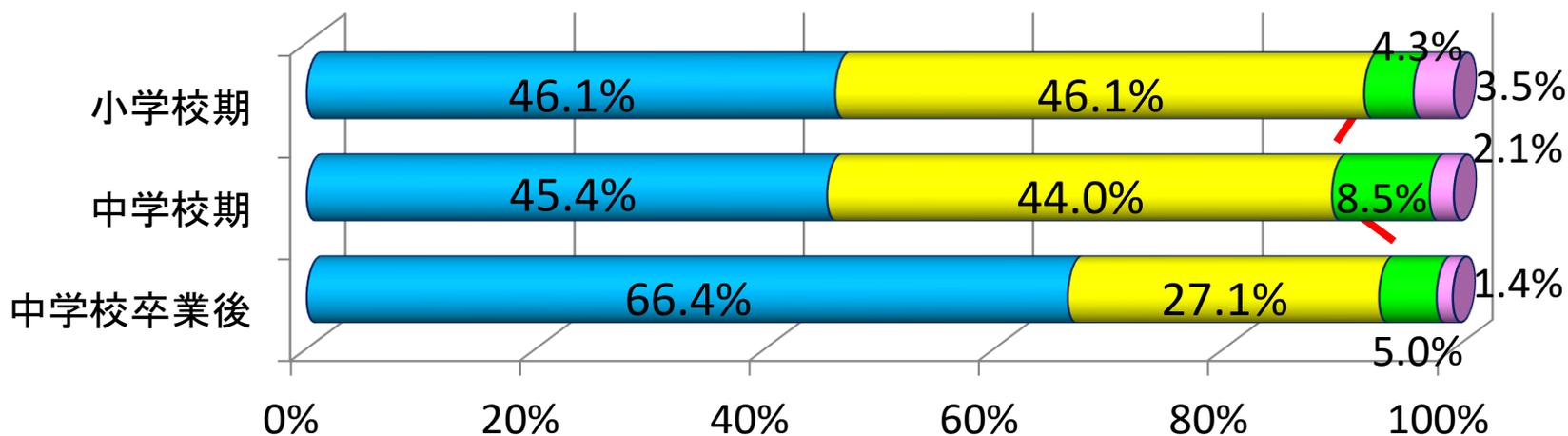


学校生活の振り返り

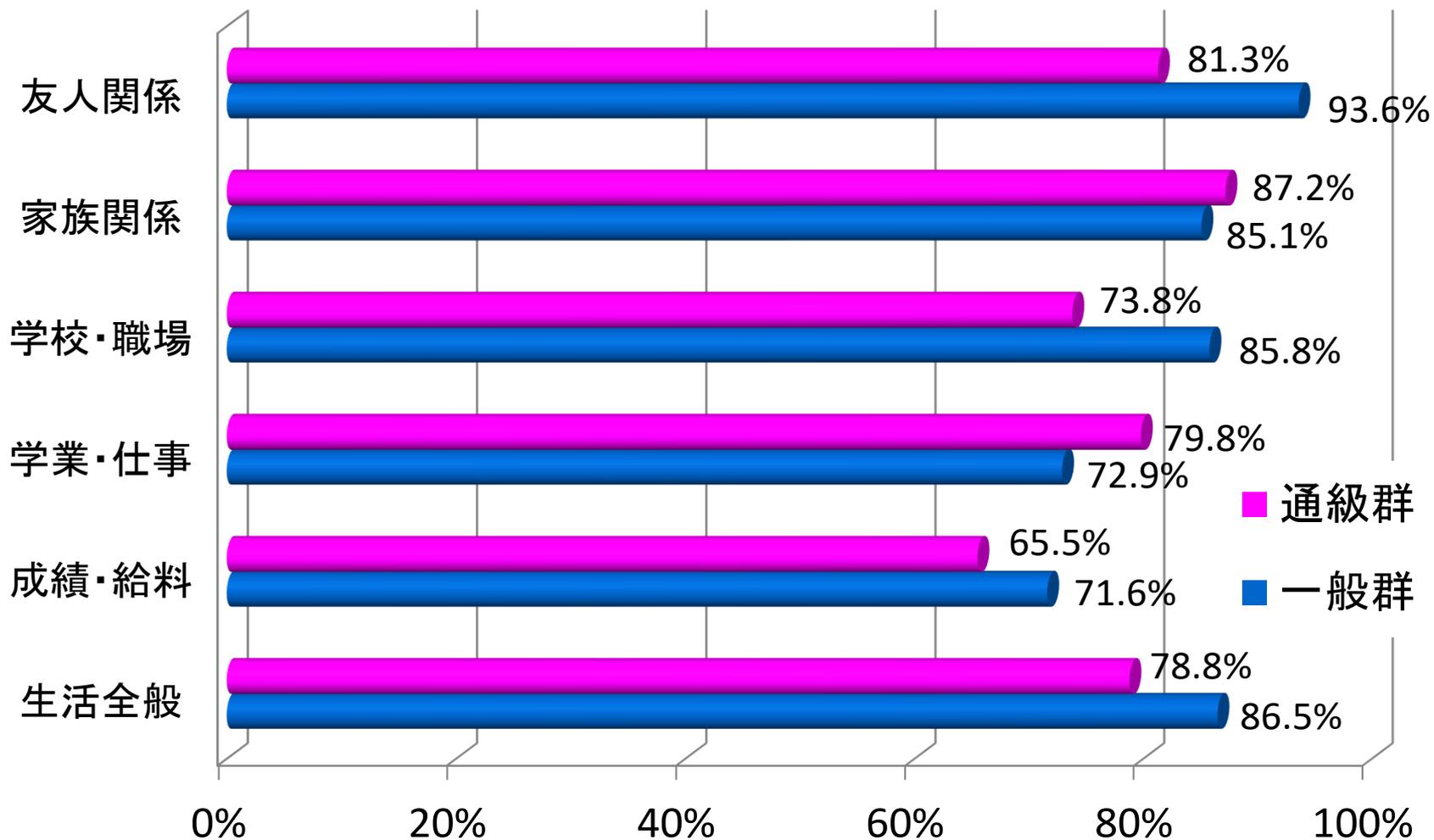
通級群



一般群

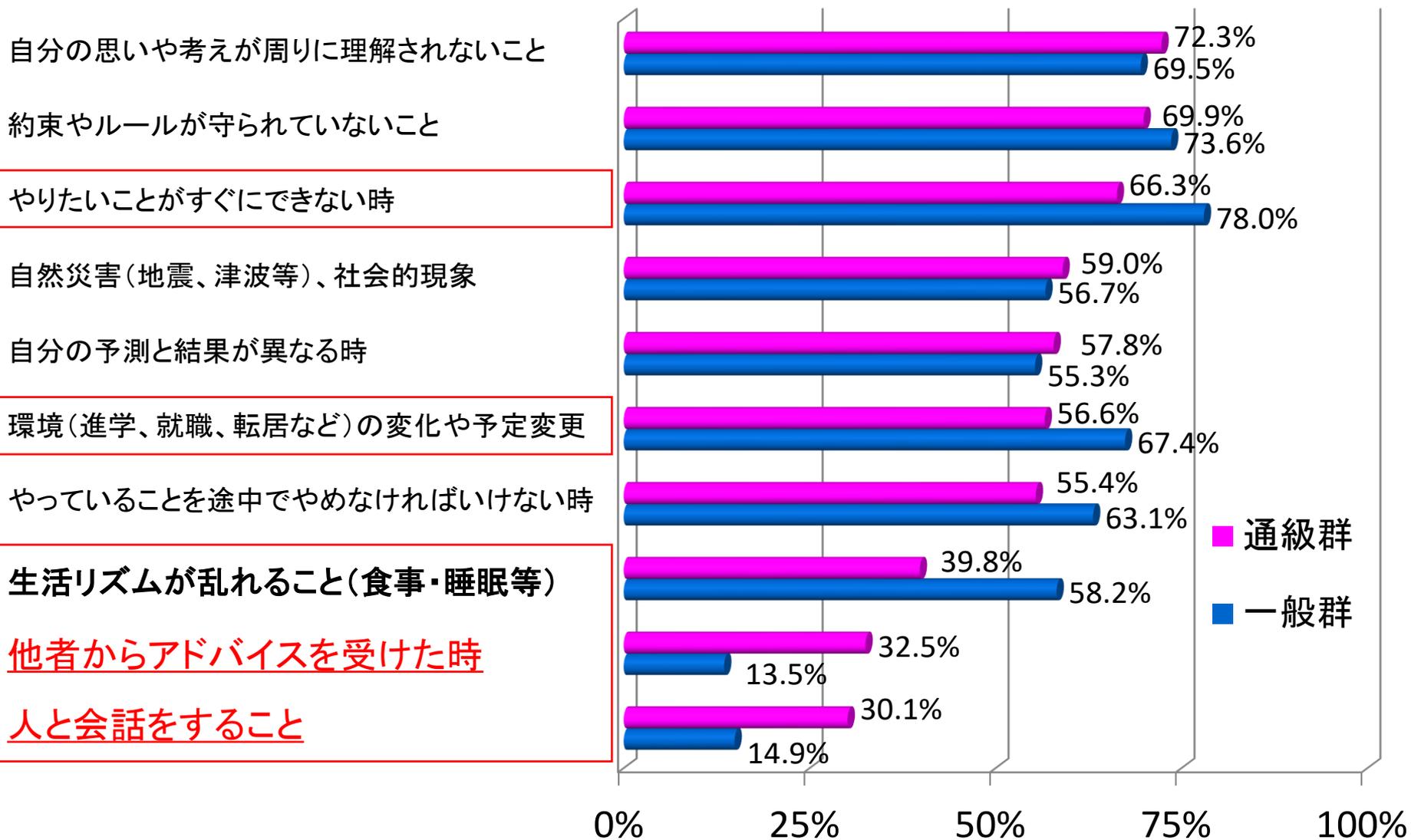


現在の生活の満足度



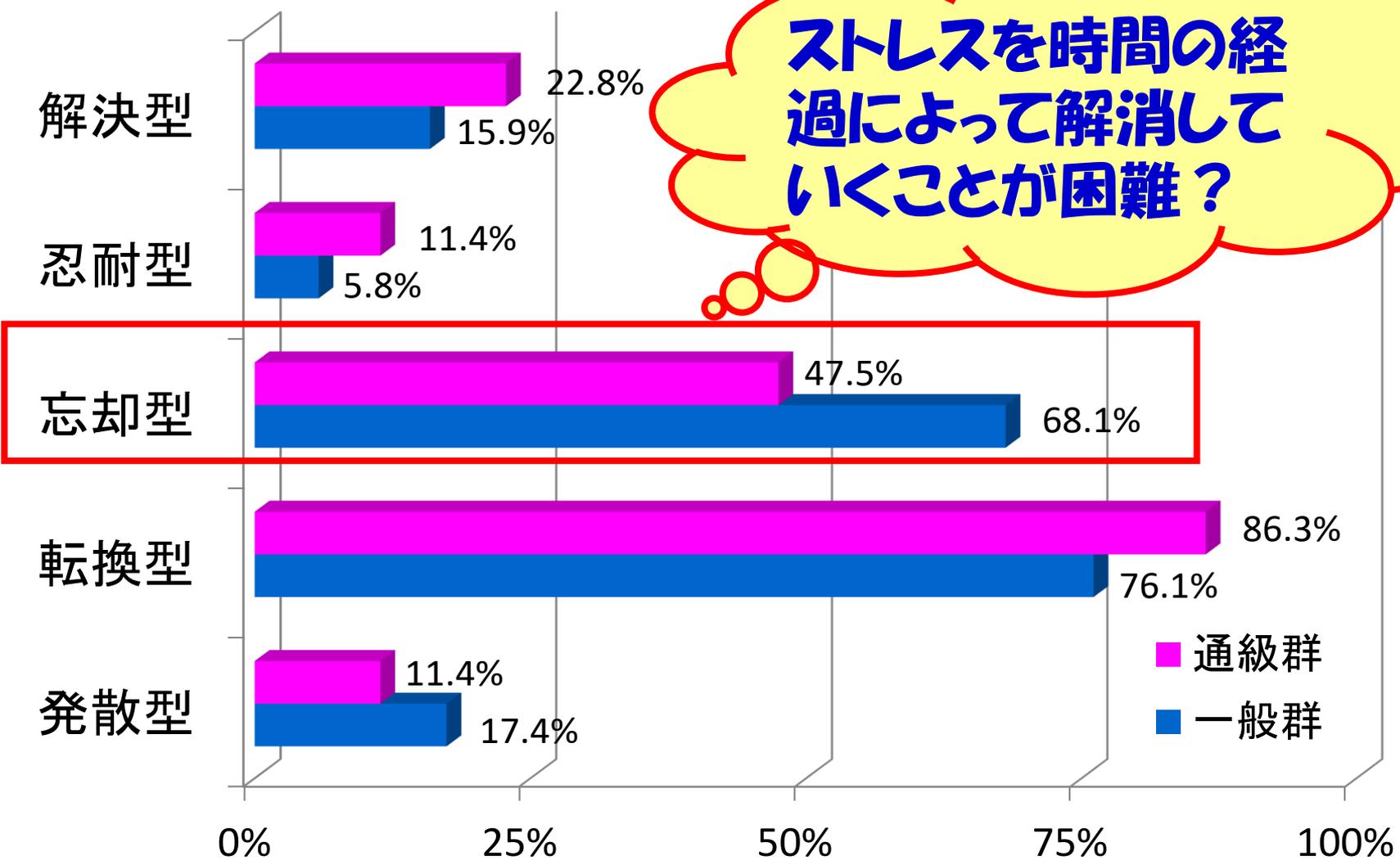
ストレスを感じること

(通級群の過半数が挙げる項目と一般群との差が顕著な項目)

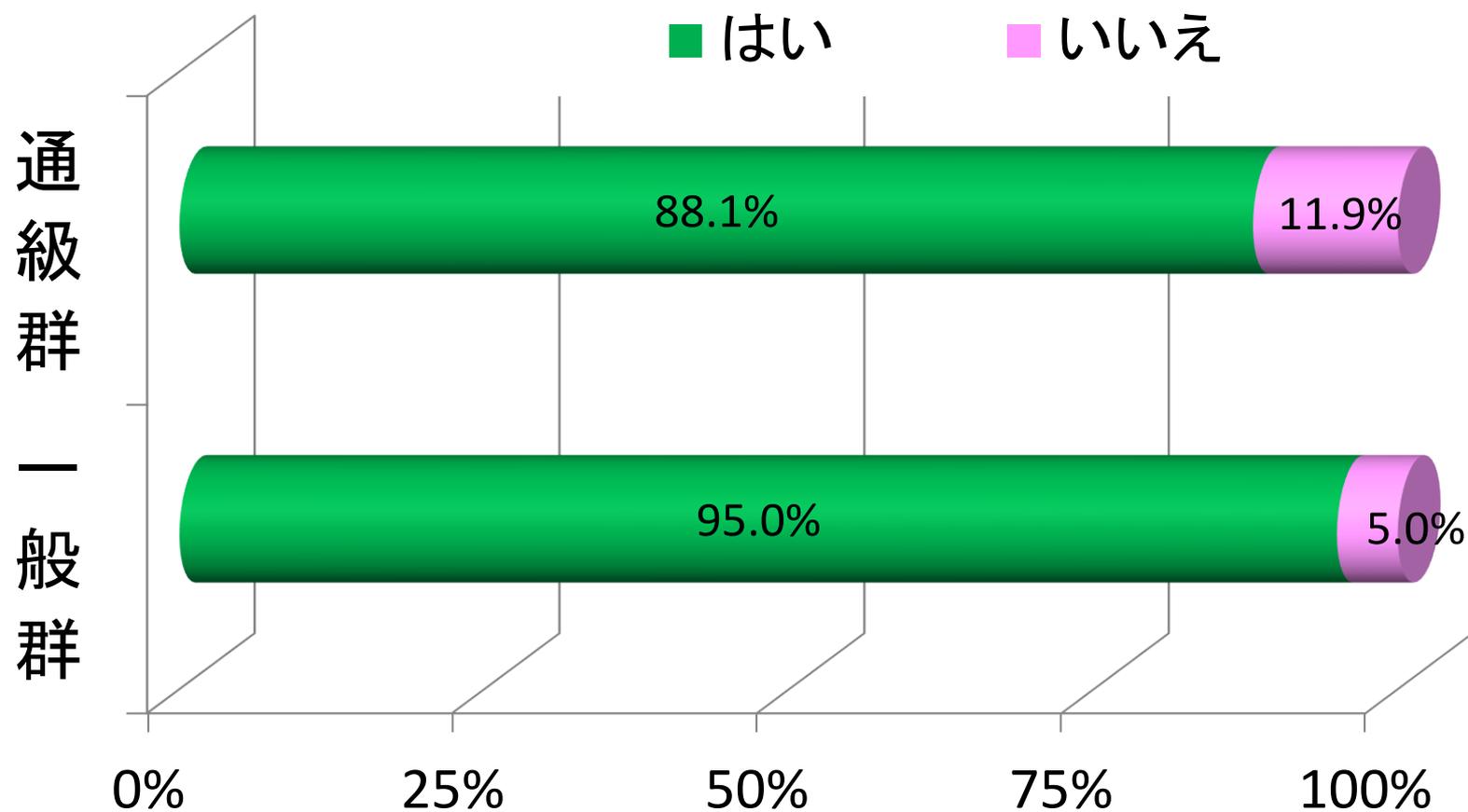


ストレスへの対処のパターン

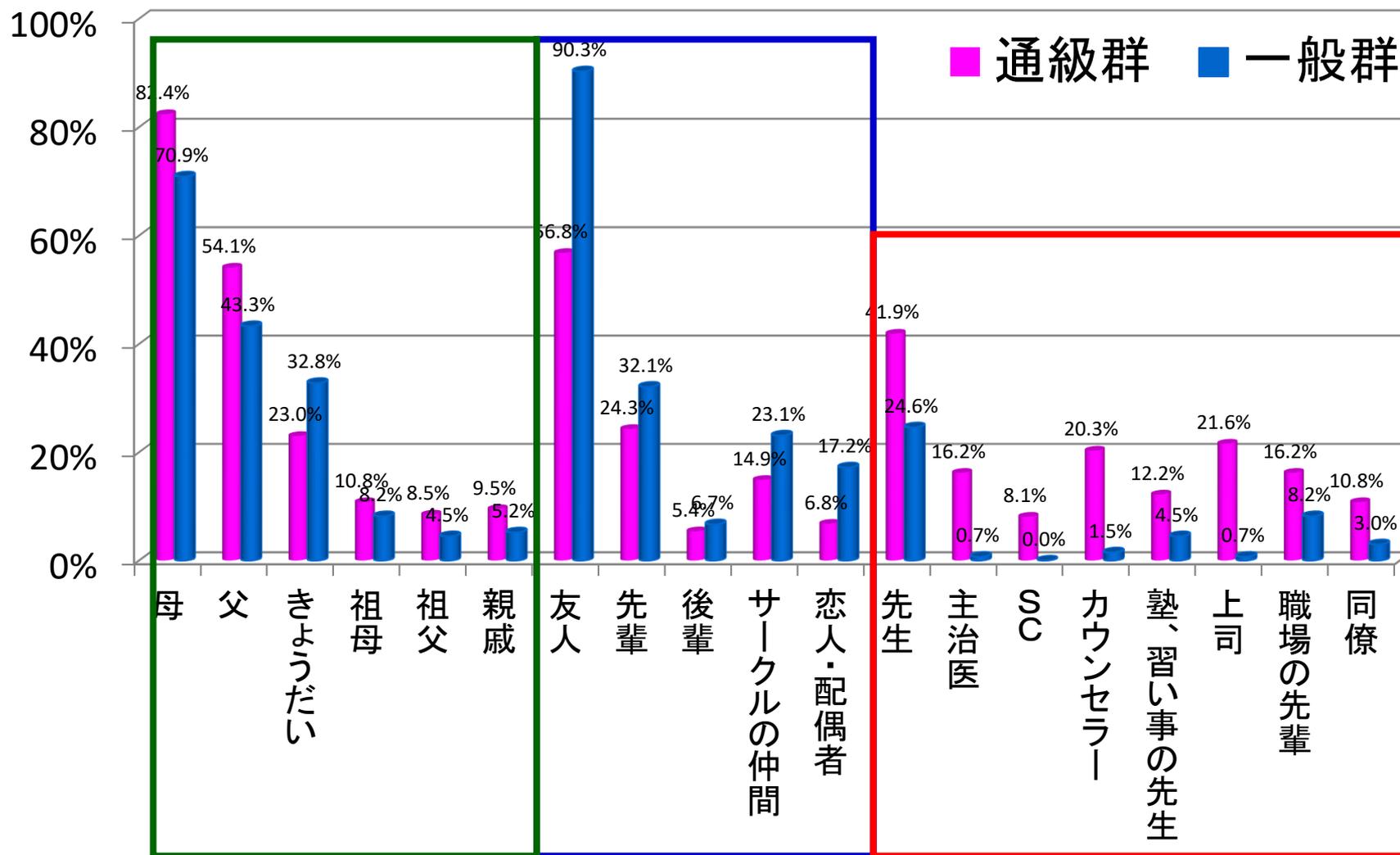
ストレスを時間の経過によって解消して
いくことが困難？



相談できる相手の有無



相談できる相手

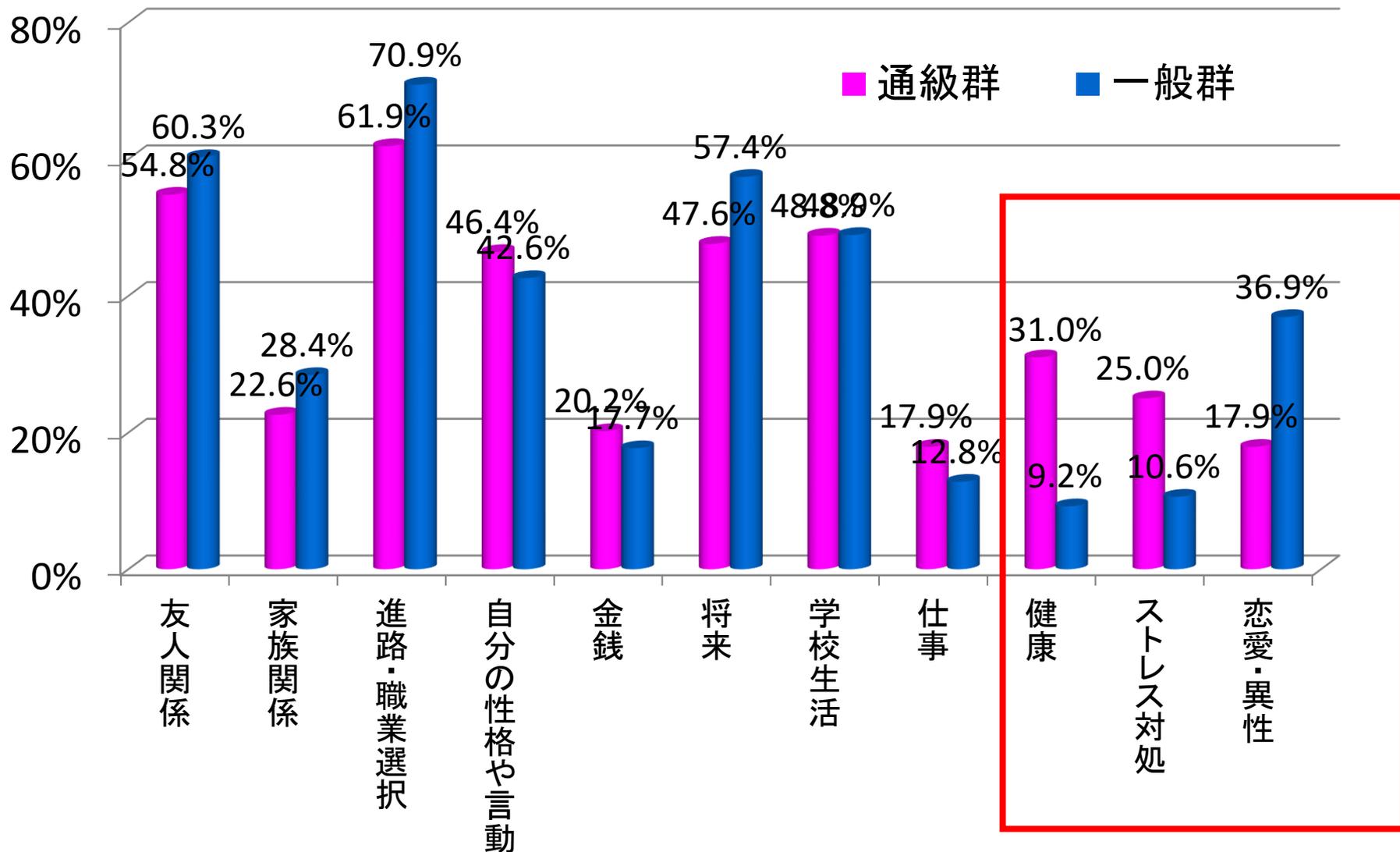


相談相手がいる

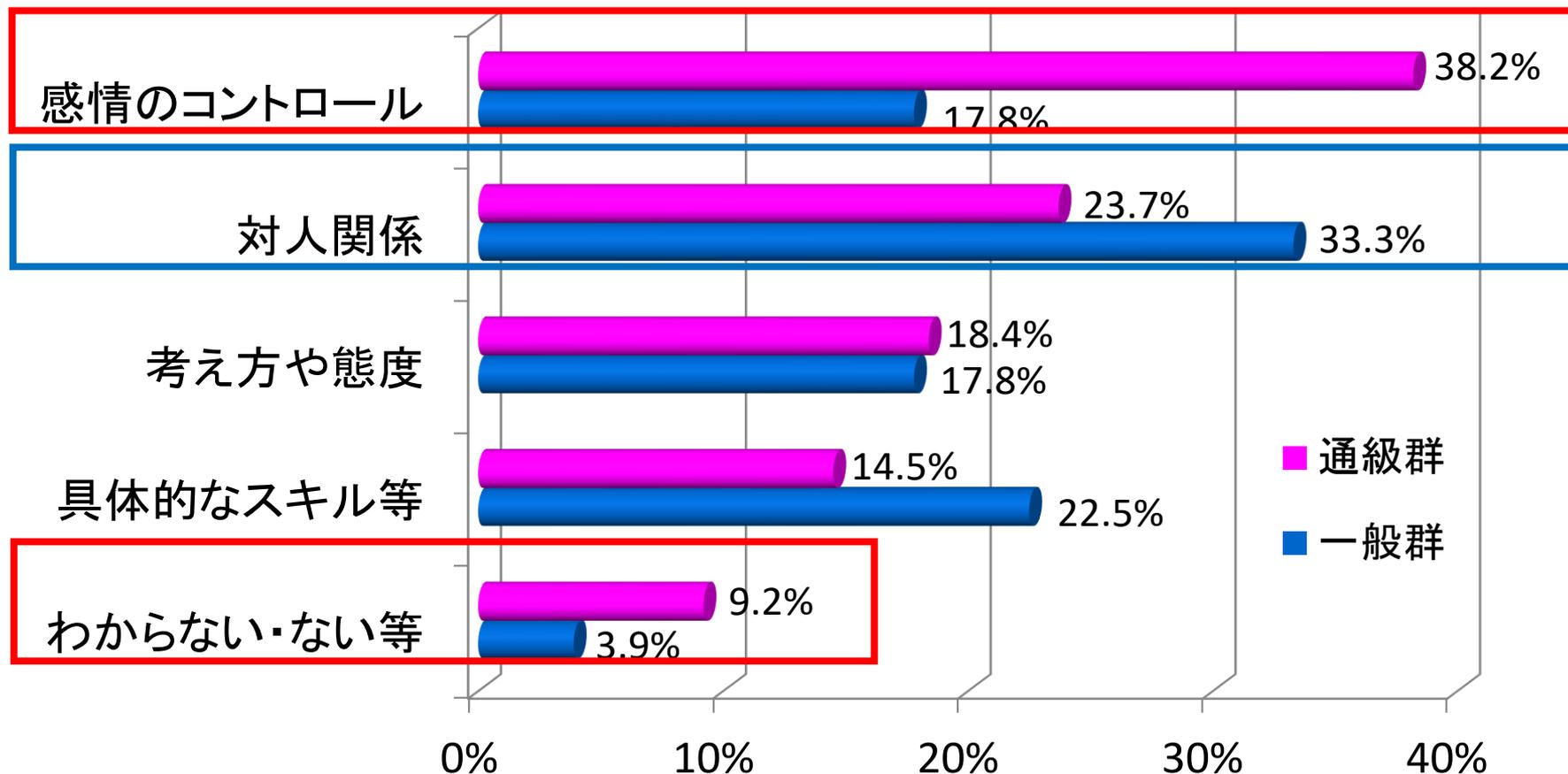
通級群: 88.1%

一般群: 95.0%

相談したことのあつる内容



成長したと思うこと

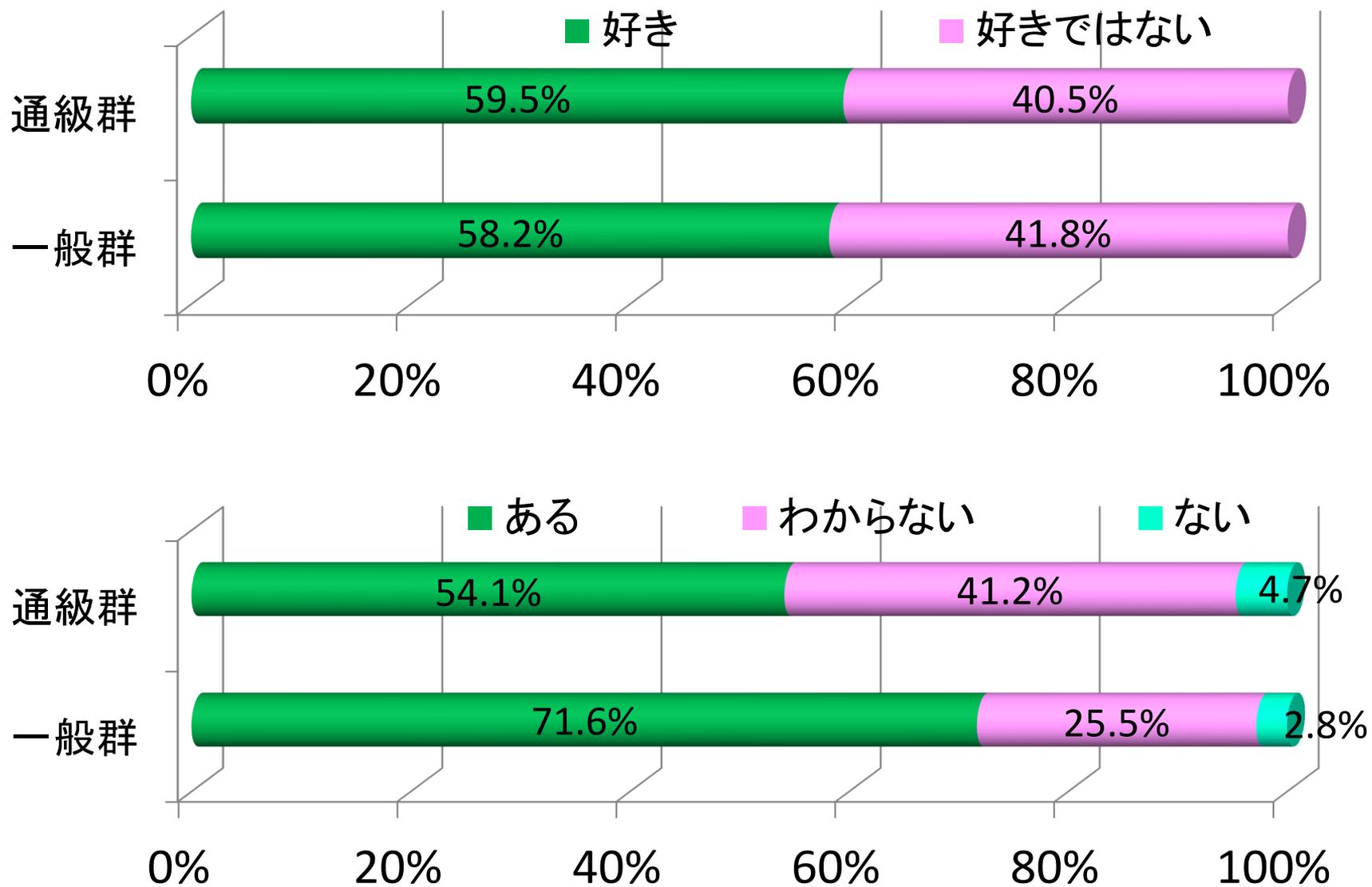


成長したことがある

通級群: 90.8%

一般群: 96.9%

自己肯定感と頼りにされた経験



インタビュー調査より

- 1年の担任と、最初うまくいかなくて。最初座っていられなかった。出席とったらどっかに行く。給食や帰りの会にはひょっこり帰ってきていた。校舎の中とか校庭とかうろうろしてた。教室に戻るのがいやで、座っていなくちゃとも思わなかった。
- 小5になって、いきなり座って、まじめに授業を受けるようになった。「小5になったら、まじめにやる」と思っていたから。

成功体験の積み重ね

- ◆ 「成功がしやすい」「失敗しても修正が可能」な環境の整備
- ◆ 「実態に合った」課題設定
- ◆ 「興味関心」がもてる活動



- 「できた」という実感
- 「やりたい」という思い

インタビュー調査より

- 親の思うようには育っていないと思うけど。受け入れてくれたから、今の自分がある。環境に恵まれていた。
- 成績が振るわず、父から勉強しろと言われていた。中1から父に隠れて演劇部に入っていた。中3のときに全国大会に出場したが、その際父にばれて強制的に退部させられた。

わかってくれる人の存在

- ◆視覚的・具体的な評価
- ◆家庭生活を支える「保護者支援」
- ◆学校生活を支える「連携」



- 「それでいい」と思える安心感
- 「がんばろう」と思える意欲

インタビュー調査より

- 通級で学んだこと：ピアノがうまい先輩を含めて、人の良い面に気づけるようになった。それまでは人の悪いところばかり気にしていた。
- 長所：物事の区別が以前からできていた、場合によっては欠点となってしまうこともある。
- 短所：自虐的なところ。自信がなさがあるが、過信してはいけないとも思っている。

「気づき」の拡がい

- ◆ 活動後の自己評価
- ◆ 小集団活動における他者評価
- ◆ 「自他の共通項」「リフレーミング」の概念



- 「**自分の長所**」への**気づき**
- 「**他者の長所**」への**気づき**
- 「**自分の短所**」の**受容**

インタビュー調査より

- 能力が無くても、周りがサポートしてくれれば、何とかなる。両親は信頼できる。だから相談者に挙げた。友だちには相談しない。（自分を）さらすのが嫌。でも本当に大事なことは親にも言わないと思う。
- 困ったときに人に相談すると、ちょっと気が楽になる。あとは、自分に味方がいると思うと心強くなる。

悩みを話せる人の存在

- ◆ 「経験したこと」を語る機会の設定
- ◆ 「良いこと」を語る機会の設定から「困ったこと」を語る思いを育てる
- ◆ 具体的な解決方法について考える



- 「日常生活」を語る力
- 「うまくいかない事」を語る力
- 「相談してよかった」という思い

インタビュー調査より

- 高校2年までは帰宅部だったが、友達に誘われたのがきっかけで生徒会に入った。会計をして、文化祭や学校説明会で活躍することができた。楽しかった。
- （高校に入ってから）中学の鉄研仲間と大回り乗車を一緒にして、お互いの情報交換をしたりすることがある。
- 気の合う人が1人いればいい。複数になると自信がない。優劣をつけられないから。

分かい合える人の存在

- ◆ 「興味関心」を発信できる場の設定
- ◆ 「活動」を共有できる人の存在



- 「自分の思い」を伝える力
- 「自分も相手も同じ」と思えること
- 「相手がいると楽しい」と思えること

「適切な自己理解」発達モデル

社会参加

自己確立

分かり合える人の存在

自己分析

「気づき」の広がり

悩みを話せる人の存在

自己受容

成功体験の積み重ね

わかってくれる人の存在

適切な自己理解を促す指導・支援モデル

成功体験の積み重ね



自分

気づきの広がり

他者



理解者

悩みを話せる人の存在

わかってくれる人の存在

仲間



分かり合える人の存在

人とのつながりの中で自己理解を育む

学齢期における 「適切な自己理解」支援とは

社会の中で生きていくための
「自分との付き合い方」がわかること

自分の特性（好き嫌い、得意苦手）がわかる

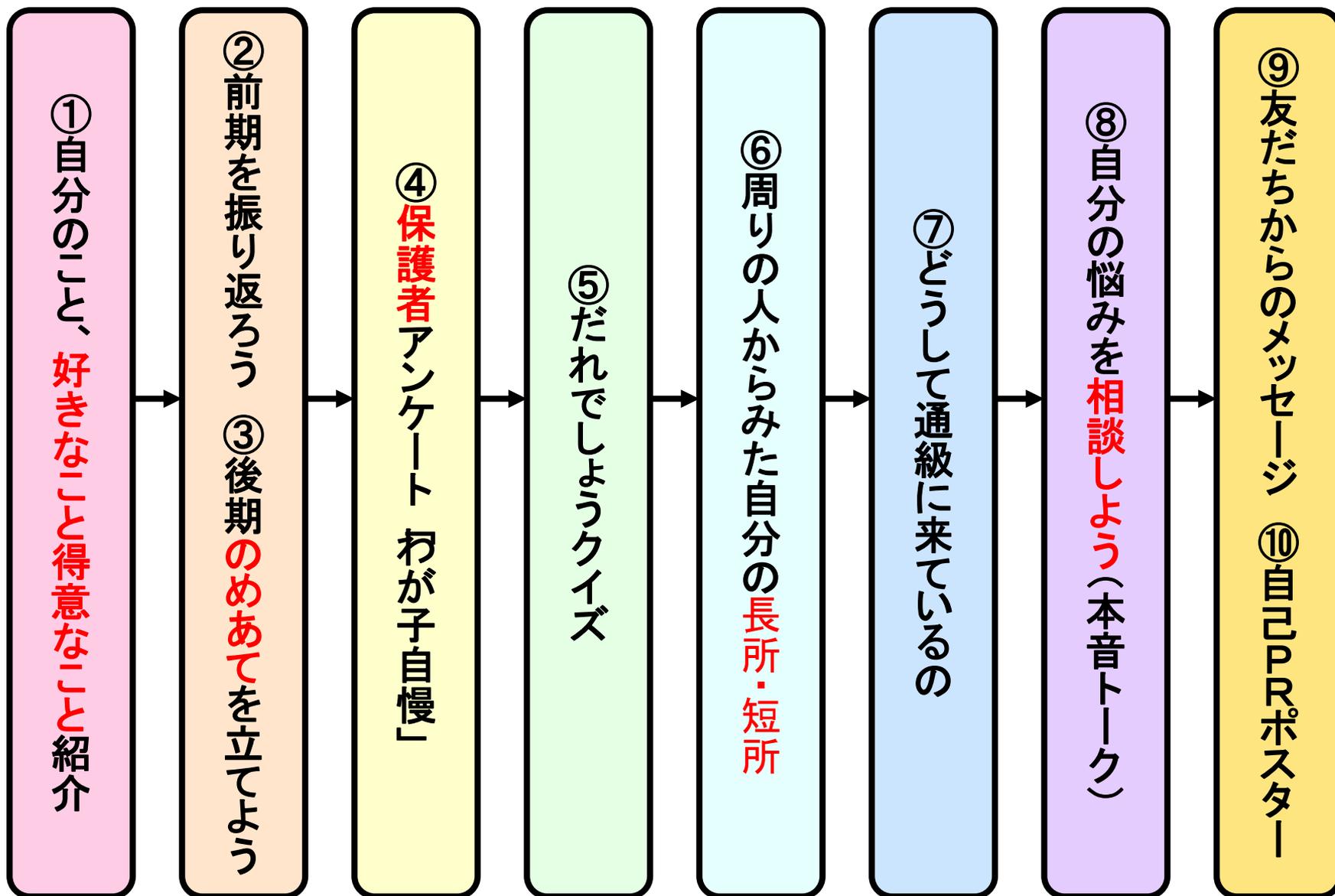
過去の経験を適切に振り返ることができる

振り返ったものを未来に生かすことができる

通級による自己理解を促す指導・支援は、

- ①社会で生きていく上で、
自分が必要としているもの
について考えることができ、
- ②信頼できる他者に相談し、
- ③問題を解決することができること
が目標である。

通級での自己理解プログラムの例



自己理解と相談の必要性 63

しかし、

他者とのコミュニケーションや対人関係に困難さのある

発達障害のある人たちにとって、自分から他者に相談することは想像以上にハードルが高く、タイミングや機会を逸するなど、

失敗経験を重ねてしまうことが多く、課題も大きい。

コミュニケーションを支援する ソーシャルスキルの階層性

相談する

困っている
状態に気づく

伝える

援助要請

解決する

状況の把握

感情の認識

感情の言語化

振り返る

表現、説明

関係性

人を頼る

自ら行動する

助けを求める

時や場の理解

対処する

改善する

整理する

自己理解と合理的配慮

自己理解を支援することは、
自己判断、自己選択、自己決定の力を育み、
自分に必要な**合理的配慮**に関する
意思の表明にもつながっていく。



「キヤット & チョコレート」

グループ活動で、ピンチ場面を、
(ドラえもんほどではないが、)
お助け道具を使用して、
うまく切り抜けるための
アイデアを出し合う。



困ったときに、相談するとは？

朝、早く起きて
近所を
マラソンする。

足が遅いから、
運動会で、いつも
ビリになるから、
運動会がいや。

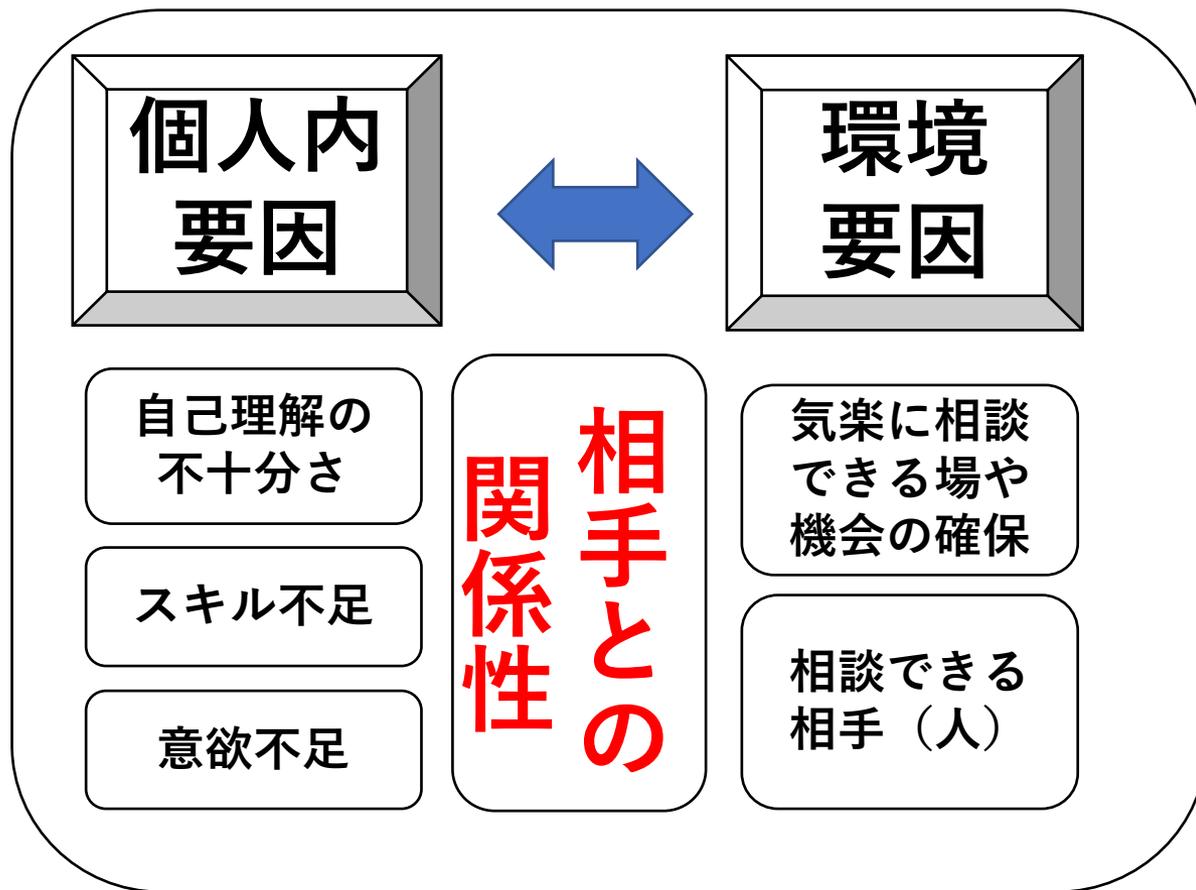
順位は
気にしないで、
最後まで
完走すればOK

ぼくも
足が遅いから
運動会はきらい。

他のダンスや
係の仕事を
がんばる

しゅんそくの
くつをはくと
早くなる。

相談に必要な要因（小島2016）



相談



学校教育の中で、困った時に**相談する力**を育てよう

「相談する力」を考える

答えを求めている?or共感を求めている?

「青年期・成人期の発達障害のある人の自己理解に関する研究」
～小学校情緒障害通級指導教室を利用した本人への調査を通して～

- 通級に通っていた人たち（通級群）は、相談相手が、「保護者」であることが多い。
- 一般群は、相談相手は、「友人」であることは多い。
- 小学校高学年～中学校期の子どもは、「同世代の友人関係を深める時期」である。
- この時期の相談とは、「答え」を求めるのではなく、「共感」を求めているのではないか。

< 参考 > 本研究の報告書

◆ 特別支援教育研究所HP > 報告書・資料

> 研究成果・刊行物 > 特別支援教育研究論文集

> (財)みずほ教育福祉財団特別支援教育研究助成事業

特別支援教育研究論文－24

年度－

- 「青年期・成人期の発達障害のある人の自己理解に関する研究」
～小学校情緒障害通級指導教室を利用した本人への調査を通して～
横浜市小学校情緒障害通級指導教室追跡調査研究会

代表	永野 和子	横浜市立左近山第一小学校情緒障害通級指導教室担当
	岡田 克己	横浜市立左近山第一小学校情緒障害通級指導教室担当
	政金 真理	横浜市立寺尾小学校情緒障害通級指導教室担当
	川上 賢祐	横浜市立平沼小学校情緒障害通級指導教室担当
	冢田三枝子	横浜市教育委員会特別支援教育課主任指導主事
	笠原 丈史	横浜市教育委員会東部学校事務所指導主事

➤ <http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/8142/20130409-155931.pdf>

本人・保護者から、
合理的配慮の提供を希望する

「意思表示」



実行できる内容を話し合い、
可能な限り合意形成できるように

「建設的に対話する」



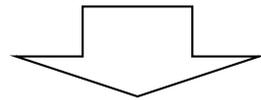
合意内容を個別の教育指導計画に明記
個別の指導計画で活用



合理的配慮の提供 スタート
(※必要に応じて見直していく)

学習指導要領改訂に伴い、中央教育審議会答申にて、近年、在籍者数が増加している特別支援学校高等部において、

自己を理解したり、**得意不得意**を伝えたりする力、進路先で人間関係力を築く力など、社会に出てから必要となる力が十分に育っていないという指摘がなされた。



そのため、**自立活動**の内容を改善・充実する方向性が打ち出された。

第2 内容 【変更点】

1 健康の保持

(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。

4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と

状況に応じた行動に関する事。

自己理解と合理的配慮

自立活動の目標

新学習指導要領

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

第7章 自立活動

第1 目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を

主体的に改善・克服するために

必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

本人主体

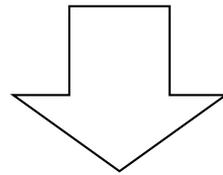
新学習指導要領の大きなポイント⁷⁵

○社会に開かれた教育課程

○主体的・対話的で深い学び

○カリキュラム・マネジメント

○育成を目指す3つの資質・能力



障害のある児童生徒は、その障害によって、各教科等において育まれる資質・能力の育成につまづきが生じやすい。

【主体的な学び】

学ぶことに興味をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次につなげる学び。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること、自分との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める学び。

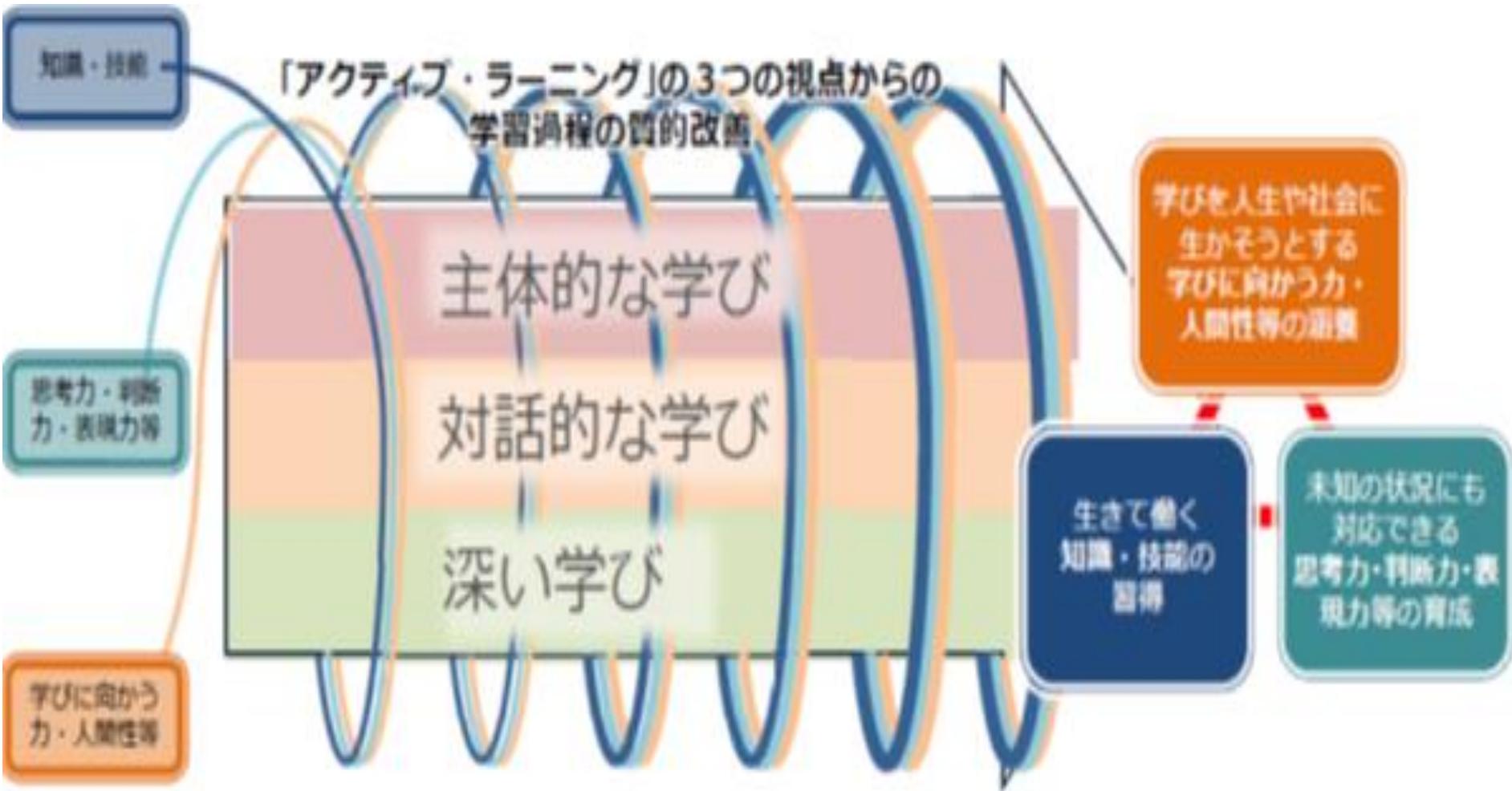
主体的・対話的で深い学びとは

【深い学び】

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

主体的・対話的で深い学びの実現

知識の理解の質を高め、資質・能力を育む授業改善



学びとは本来、主体的なものである。

しかし、発達障害のある人の指導・支援は
在籍校や保護者など周りの申し出等
により開始する機会が多いため、
その指導・支援を展開していく際に

「主体的な学び」や「自己理解」
に課題を抱えていることが多い。

新学習指導要領において

自立活動の内容が改訂され、

自らが生活しやすいように

能動的に環境へ働きかけていく力をつけていくことに関する項目が追加され、

「主体性」と「自己理解」を

支援する社会的ニーズがますます高まってきたといえる。

菊地（2017）は、**学校教育**段階において、

「**学ぶこと**」が**役割**の中心となる児童生徒にとって、まずは学ぶことを通して

「**なりたい**」「**ありたい**」と思えるようになることや「**やってみよう**」と思えるようになること大切であり、

このような彼らの「**思い**」や「**願い**」を大切にした、**物事**との**向き合い方**に**変化**を促す教育が「キャリア教育」、すなわち「キャリア発達を支援する教育」である。

平成23年1月の中教審の答申では、

○「キャリア教育」の定義

「一人一人の**社会的・職業的自立**に向け、
必要な**基盤**となる**能力**や**態度**を育てることを
通し、**キャリア発達**を**促**す教育」

○「キャリア発達」とは

「**社会**の中で**役割**を**果**たしながら、
自分らしい生き方を**実現**していく**過程**」

文部科学省と横浜市のプロジェクト

○「先導的実践研究加配」

- ・教職員2名を文科省からの加配により配置。

○「発達障害に関する

通級による指導担当教員等専門性充実事業」

- ☆子ども一人一人の強み（好き・得意・願い）を生かす教育の在り方について研究し、専門性充実を目指した取り組みを行う。

コラボ教室のコンセプト

Collaborate (協力)

子どもが主体的に/
個のニーズに応じて

家庭

横浜市立学校

小・中
高・特支
通級

地域



LABO (研究室)

- * 子ども自身が“自分”研究
- * 新しい視点による特別支援教育の研究

横浜市教育委員会

- 方面別学校教育事務所
- 関係各課
 - ・ S S W
 - ・ ハートフル
 - ・ スクールカウンセラー

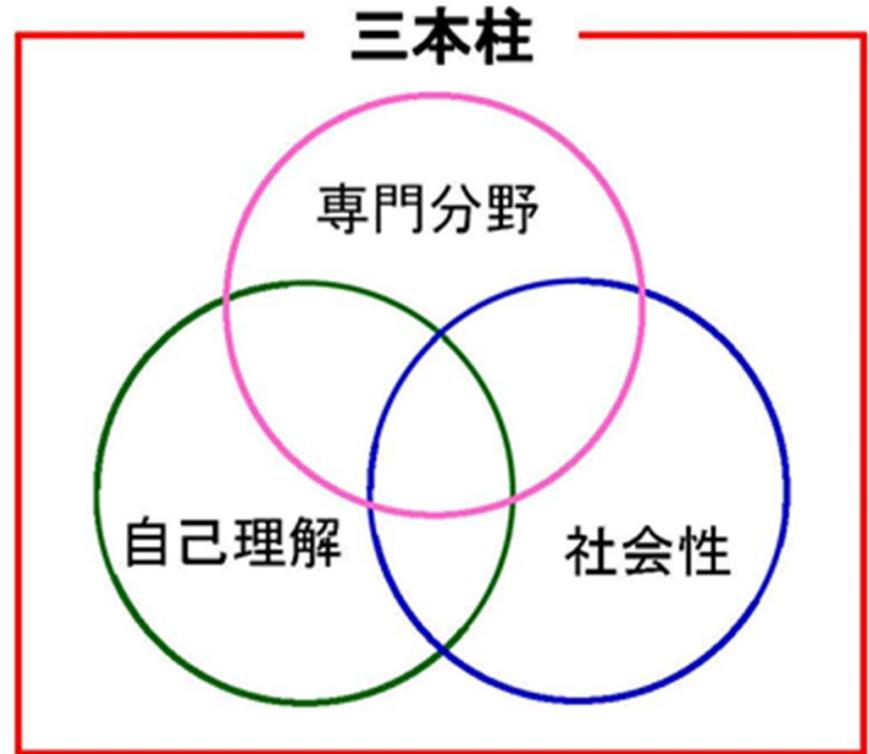
各種専門家

特別支援教育
教科教育
専門分野
(大学・企業等)
医療・心理・福祉 等



教室とは

- ① 「専門分野」
- ② 「社会性」
- ③ 「自己理解」



3つを柱に指導を構成する。



教室で学ぶこと

- ・ **好きなこと得意なこと**を学んでみよう。
- ・ **自分のこと**を理解してみよう。
- ・ **人とのつながり**を学んでみよう。

これらは、先生や友だちと**コラボ**したり、**相談**したりしながら、**学んで**いきます。

「自己の社会化」と「自己の個性化」の バランスを図る教育

自己の社会化とは、**社会とつながり**、社会に合わせた自分を形成する過程、他人や社会を愛おしむ心の形成。

自己の個性化とは、**個人が個人らしく生きる**こと、自分を愛おしむ心の形成。

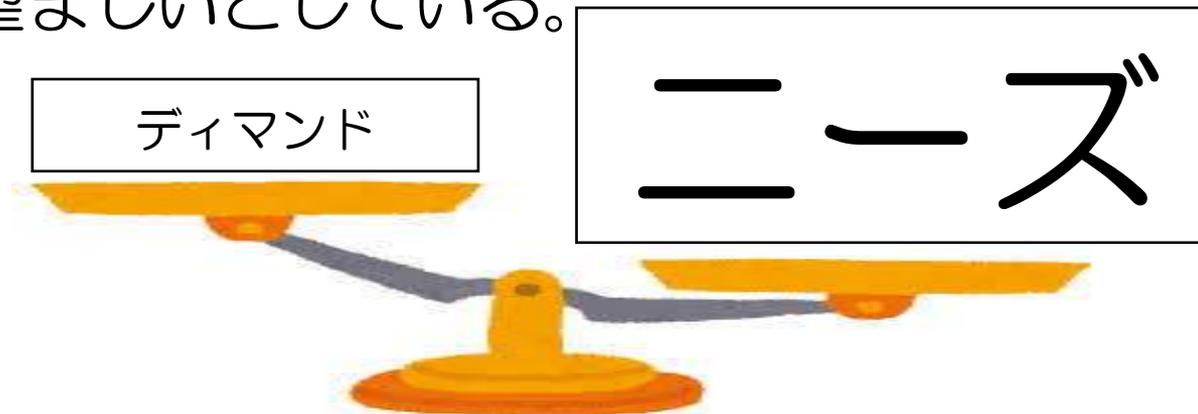
子どもの発達支援は、**両方のバランス**を意識しながら取り組んでいくことになる。

つまり、学校生活のルールを理解し社会に適応していく力をのばしていくとともに、自分らしく生きる力を身につけていく必要性がある。

子どもの願いと子どもに必要なこと 89 (ディマンドとニーズ)

山下氏(2016)は、**子どもと共同戦線をはる**ことで、よりよい指導が可能になると示し、**子どもの願いから指導をスタート**することで、子ども自身が活動に対して**主体的**に、そして**目的意識**をもって、課題に取り組む姿が見られるとしている。

また、子ども・保護者・学級担任の願いを把握する際は、**ディマンド**と**ニーズ**の違いを意識することが重要で、**子どもの願い(ディマンド)**を中心に把握したうえで、子どもに**今生活するうえで必要なこと(ニーズ)**を把握し、指導計画を立てることが望ましいとしている。



公式的アセスメント

- **興味関心・得意の把握
(本人の強みアンケート)**
- 強みー弱み、認知特性の把握
(WISC-IV)
- 社会性やセルフコントロールの把握
(Vineland-II 適応行動尺度)
(社会情動的発達チェックリスト SEDC ※作成中)
- 自己理解に関する情報収集
(自尊心尺度、自己理解インタビューなど)

子どもの強み（好き・得意）アンケート⑨1

- ① 好きな食べ物は・・・（ ）
嫌いな食べ物は・・・（ ）
- ② 好きな色は・・・（ ）
- ③ 好きな遊びは・・・（ ）
- ④ 好きなテレビは・・・（ ）
- ⑤ 好きなゲームは・・・（ ）
- ⑥ 好きなキャラクターは・・・（ ）
- ⑦ 好きな本、マンガ、映画は・・・（ ）
- ⑧ 好きな教科は・・・（ ）
そのなかで特に好きな活動は・・・（ ）
嫌いな教科は・・・（ ）
- ⑨ 好きなスポーツは・・・（ ）
- ⑩ 好きな音楽は・・・（ ）
- ⑪ 好きな場所は・・・（ ）
- ⑫ 好きな言葉は・・・（ ）
- ⑬ 得意なことは・・・（ ）
苦手なことは・・・（ ）
- ⑭ 大切にしているものは・・・（ ）
- ⑮ 熱中できることは・・・（ ）
- ⑯ 私は（ ）をしているときの自分が好きです。
- ⑰ 「いいなあ」と思う生き方をしている人は（ ）。
- ⑱ 気持ちが落ち着くのは（ ）をしているときです。
- ⑲ 今後、やってみたいこと、チャレンジしてみたいことは・・・（ ）
- ⑳ 将来、こうなりたいなあという希望や夢は・・・（ ）



5つの取り組み

- 1 通級型指導（週1回）
- 2 巡回型指導（2週に1回）
- 3 専門分野の特別指導（年10～15回）
- 4 本人参加型会議（年2回）
- 5 本人主体の個別の指導計画PDCA（通年）

1 通級型指導

- 教室における指導（**週1回 2時間程度**）

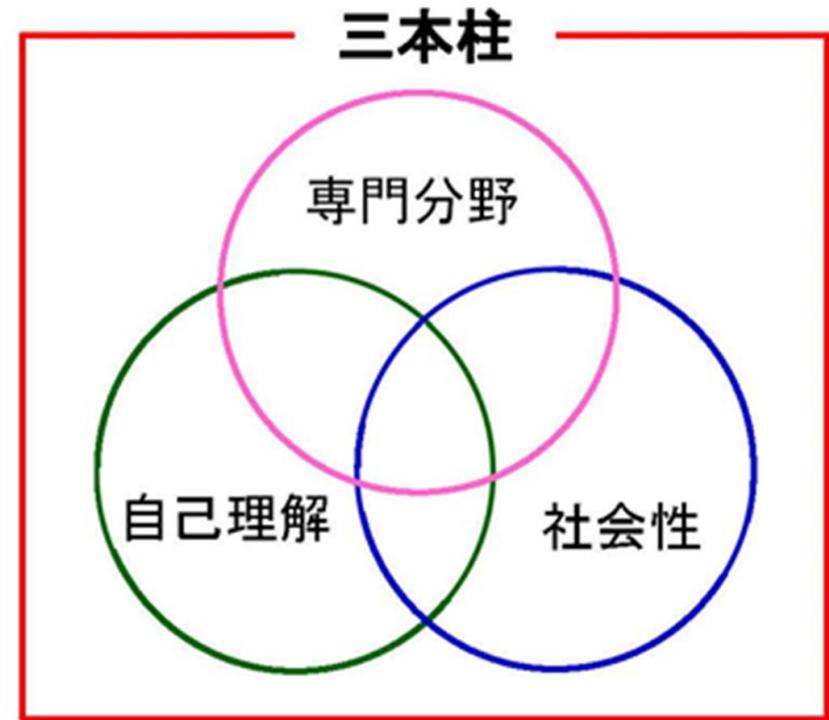
- 個のニーズに応じながら

「専門分野」

「社会性」

「自己理解」

3つを柱に指導を構成する。



コラボ教室 学習プログラム

〈児童の学習内容〉

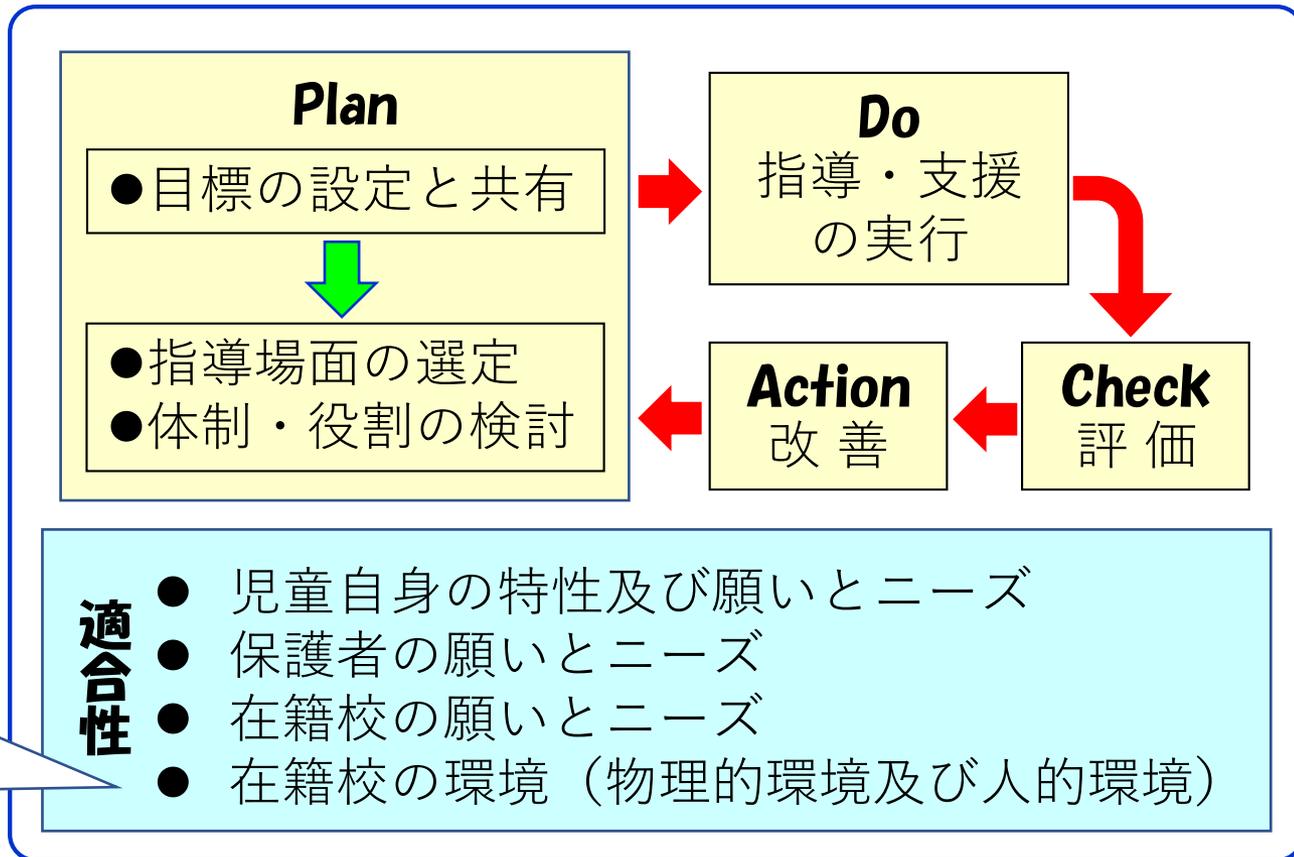
研究	学習内容	主なねらい
始め	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 学習予定の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀 活動の見通し
専門分野	<p>「特別指導の参加について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の専門分野指導について見通しを持つ。 今後の専門分野についてグループで話し合う。 自分の専門分野について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の想起 コミュニケーション 興味関心 気持ちの表現 計画する
自己理解・他者理解	<p>「コラボ研究計画を立てよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてカードのふり返しをする。 P計画→D実行→Cふり返し→A見直し 本人参加型会議のふり返しをする。 周りの人の願い、メッセージについて 生活をふり返し、自分に合っためあてを考えよう。 できていること、できていないことを整理する。 コラボ研究計画（個別の指導計画）を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活場面のふり返し 助言の受け入れ 自己理解 助言の受け入れ めあて意識 計画、実行、ふり返し 見通しをもつ 相談する 相談に乗る
社会性	<p>「上手にかかわろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合っ、ボードゲーム活動を行う。 活動の種類やルールなどを話し合っ決めて 話し合っ、の中から、選ぶ。 ルールに沿っ、友達と適切にかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との親和性 勝敗の受け入れ 感情コントロール ルール理解 時間の意識
おわり	<ul style="list-style-type: none"> 学習のふり返し 先生から、友達からのメッセージ 次回の活動予告 	<ul style="list-style-type: none"> 行動の想起 気持ちの表現 次回の見通し

2 巡回型指導（担任との協働による指導）

- 児童の日常の学校生活へのアプローチ
 - 自立活動的視点を取り入れた通常の教科等の学習活動の中での支援
 - 担任等とのチームティーチングによる支援を原則
- ※ CO-LABO担当者による別室での自立活動の指導ではない

【打合せ・評価】

- ◆ 児童支援専任（特別支援教育Co）を窓口
- ◆ 管理職・児童支援専任・担任、その他関係職員



よさを生かす
土壌をつくる
学級経営・
学校組織

通級型指導＋巡回型指導 六何で報連相



いつ 昨日
どこ 校庭で
だれ クラスの友だち
なに ドッジボールのときに、怪我した
なぜ ○○さんとぶつかって、口から血が出た
どう思った

学び

痛かったから泣いちゃったのに、一人しか保健室に一緒にいってくれなかったから、へこんだ。
みんなが心配してくれていたのかわからなかったから、聞けばよかった。

平成30年度 グループ編成

	月	火	水	木	金
9:30	巡回型 指導日	巡回型 指導日	通級型 指導日	巡回型 指導日	通級型 指導日
11:30			A B		E F
14:00	巡回型 指導日	巡回型 指導日	通級型 指導日	巡回型 指導日	通級型 指導日
16:00			C D		G H

3 専門分野の特別指導

- 児童の**能力や興味関心の高い分野**を中心とし、必要に応じて当該分野の**専門家の協力**を得て指導を行う。
- 通常に通級型指導（社会性及び自己理解）の指導内容との関連を図ることで、**児童の個性を引き出す**とともに、それを**活用する**指導を行う。

専門分野の特別指導10月～2月(計17回) 99

	専門分野指導	名前・組織・職業	内容
1～5 15	バスケットで プログラミング をしよう	原田 康徳氏 井上 愉可里氏 バスケット開発者 合同会社デジタル	バスケットを使い、実際 ゲーム作りに必要なプログ ラミングを学び理解する。 ゲーム作りを行いグループ の子を中心に交流した。
6	紙飛行機を 遠くまで	金子 勇夫氏 ディレクトフォース 理科実験グループ	飛行機の飛ぶ仕組みを学び、 実際に作成し、遠くまで飛 ばすために空気抵抗などにつ いて学んだ。
7	目指せ！ 地学博士の道	和久井 清司氏 横浜市三殿台考古館 館長	三殿台考古館へ行き、黒曜 石の使い方や地層、昔の住 居跡を学んだり、火起こし や弓矢体験に取り組んだ。
8 13	目指せ！ 生物博士の道	尾上 伸一氏 飯島小学校校長	生き物の写真を見て質問交 流した。実際に田んぼと池 の生き物を顕微鏡で確認し、 スケッチをおこなった。
9	横浜の海と 温暖化	吉田 美緒氏 横浜市温暖化対策統 括本部プロジェクト 推進課担当係長	横浜の海と温暖化からの テーマでパワーポイントで お話をしてもらい、クイズ 形式で答えていった。

専門分野の特別指導10月～2月(計17回) 100

10	落語独演会 ～想像と創造 の世界～	保科 琢音氏 絵本作家 落語家	第1部が絵本と紙芝居、第2部が落語。子どもたちの興味関心を引き付ける素敵な時間となった。また落語についてもその世界を想像しながらしっかり聞くことができた。
11	羊の毛で小物 づくり	金澤 三枝氏 文化服飾学院専 任講師	繊維としての動物の毛の話聞き、実際に小物づくりをする予定。
12 14	夢ケーキを 作ろう	倉内 正巳氏 有限会社 レシユー オーナーシェフ	夢シートに親子で夢を語りながら、描く。二回目には実際に夢のケーキを作る予定。
16	数学者への道 ～桜の開花予想～	下村 治氏 洋光台第一中 通級指導教室	数学的思考により、桜の開花日を予想する問題に取り組む。 日常生活に生きる算数・数学を学ぶ。
17	地図と交通の 世界	川口 信雄氏 横浜わかば学園	世界の地理と交通の不思議について学ぶ。

「専門分野の特別指導」の 学習プログラム例

コラボ教室 学習プログラム（特別指導）		
内容	学習計画	主なねらい
始め	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、挨拶 ・本日の学習予定の確認 ・前回のプログラミング学習の振り返りをする。 ・一人ずつ、活動のめあてを伝える。 ・移動 → 仏向小へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・活動の見通し ・速やかな移動 ・適切なかかわり ・対人距離
専門分野の特別指導	<p style="text-align: center;">「ゲーム作りを学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着席 ・タブレットの確認、起動させる。 <p>① 画面を触ると動く仕組みを理解し、動かし方を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星を描き「触ったら〇〇する」という命令には指マークを使うことを理解する。 ・めがねを1つ使う。 <p>② タッチボタンの仕組みを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原っぱに隠れている昆虫や動物を書く。 ・めがねを1つ使う。指マークを使い命令をだすと、原っぱに隠れている動物が出てくる現象について理解する。 <p>③ タブレットを寄せてグループごとに何が隠れているか、みつけながら遊ぶ。</p> <p>「オリジナルの絵を描いて動かす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの絵を描く。 ・メガネを使い、オリジナルの絵を動かす。 ・絵がテーマごとに様子を観察する。 ・時間がとれる子は、2つめに取り組み。 ・グループのテーブルを周り、観察タイムをとる。 <p>④ シューティングゲームづくりの仕組みを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方眼紙を設定し、マスに入るように発射台を描く。 ・めがねを2つ使う。発射台とビームがでてくるめがねとビームがーます上に動くめがねをつくる。 <p>⑤ オリジナルシューティングゲームを作り遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残りの時間で、学んだ仕組みを活用して、オリジナルのゲームを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの安定 ・発言のルール ・指示理解、指示行動 ・活動の意欲 ・注意集中 ・行動の切り替え委 ・手指の巧緻性、操作 ・援助の発信 ・ルール理解 ・自由描画 ・情報の基本原理の理解 ・条件下における発想 ・小集団の行動 ・他者への言葉かけ ・気持ちのコントロール ・目と手の協応 ・援助の発信 ・助言の受け入れ ・協力、協調 ・言葉の表現 ・時間の意識 ・（人前での発表）
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・仏向小にて学習の振り返り ・先生から、友達からおうちの方からのメッセージ ・次回の活動予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の切り替え ・気もちの表現 ・次回の見通し

●参加者・・・本人、保護者、担任、特別支援教育CO、コラボ担当

●目的・・・**本人の思い・願いの実現のための会議**

➤ **本人の思いや願いを関係者みんなで聞く。**

➤ 本人の思いや願いの実現のための応援、助言をする。

●内容

① 現在の自分

➤ **本人のよさ**（得意、好き、強み、活躍の機会、役割等）

➤ **困っていること**（本人自身、周囲の人）

② 目標の設定・・・本人のよさを活かし、人や社会とつながる

➤ 本人の願い

➤ 周囲（保護者、在籍校、CO-LABO教室）の願い

③ 目標に向けた支援のアイデア （ブレイン・ストーミング）

➤ 本人が望むこと

➤ 周囲（保護者、在籍校、CO-LABO教室）ができること

★会議参加のルール

- ①全員が**発言**する。
- ②黒板（紙）に書き**見える化**する。
- ③他者の意見を**否定しない**で、アイデアを出し合う。

① 本人のいいところ

とくい す つよ かつやく きかい
 (よさ、得意、好き、がんばり、強み、活躍の機会)

- すねないでがまんづよくなった。
- 言葉づかいがていねい。
- 気がきく。先生や友だちのことにも気づく。
- 友だちのよいところをみつけるのが得意。
- 明るくて元気なところがいいところ。
- 言葉で気持ちを伝えてくれる。

②困っていること

(願い、気になること、身につけてほしい力)

○言うことを聞かなくて、オレも困っている。

例えばゲームの時間とか。

○つらいときに、だまって一人ぼっちにならないでほしい。

→オレに原因があったときは一人になって考えたい。

○気がちりやすく、すぐに立つことがある。

○友だちとのきょりが、ちかい。

○やるべきことはやってほしい (ふろ、はみがきなど)

③目標を考える

こま

(よさをいかして、困っていることへアプローチする)

- えんきより友だちになる。
- 自分のしっばいを許す「失敗は成功のもと」
- まあいいかが言えるようになるといい。
- 音がしても、話している人のところを見る。
- ゲームとのつきあい方を考える。

④ 目標実現に向けた支援

しえん

かんが

(みんなで支援のアイデアをたくさん考えよう)

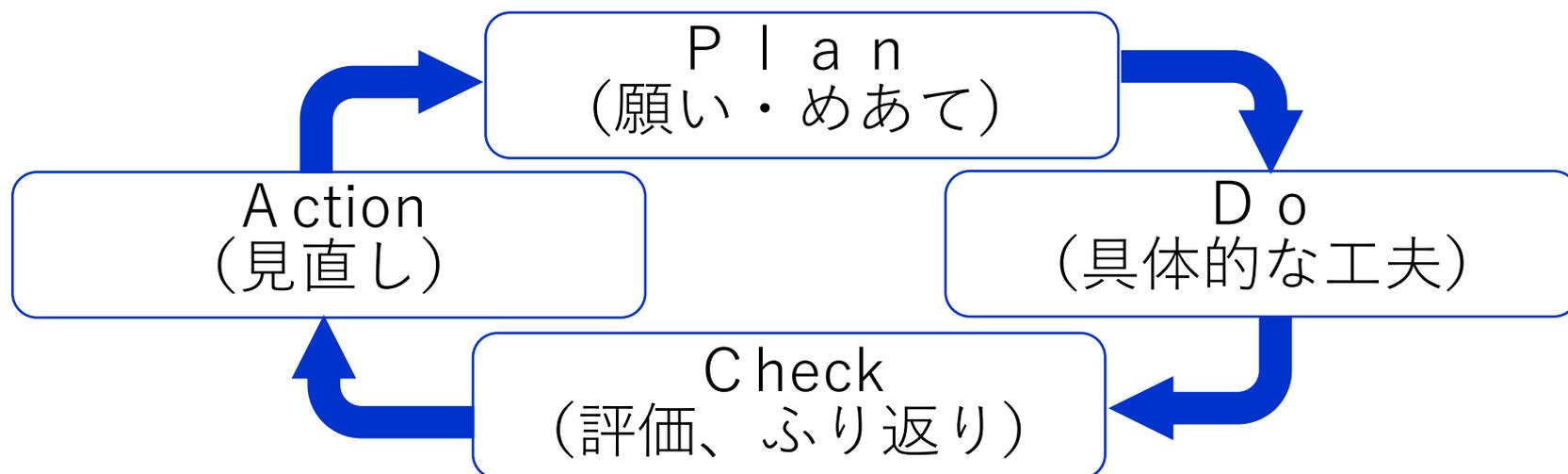
- ぼくが苦手な教科をてっていきに教えてほしい。
- すぐにやめる練習をする。すぐろくとかで。
- 目標ができたならポイントシールなど工夫する。
- まほうのことは集めをする。どんまい、まっいいかなど
- クールダウンの場所を決めておく。

5 本人主体の個別の指導計画

「自分のための学びプラン」

『目的』

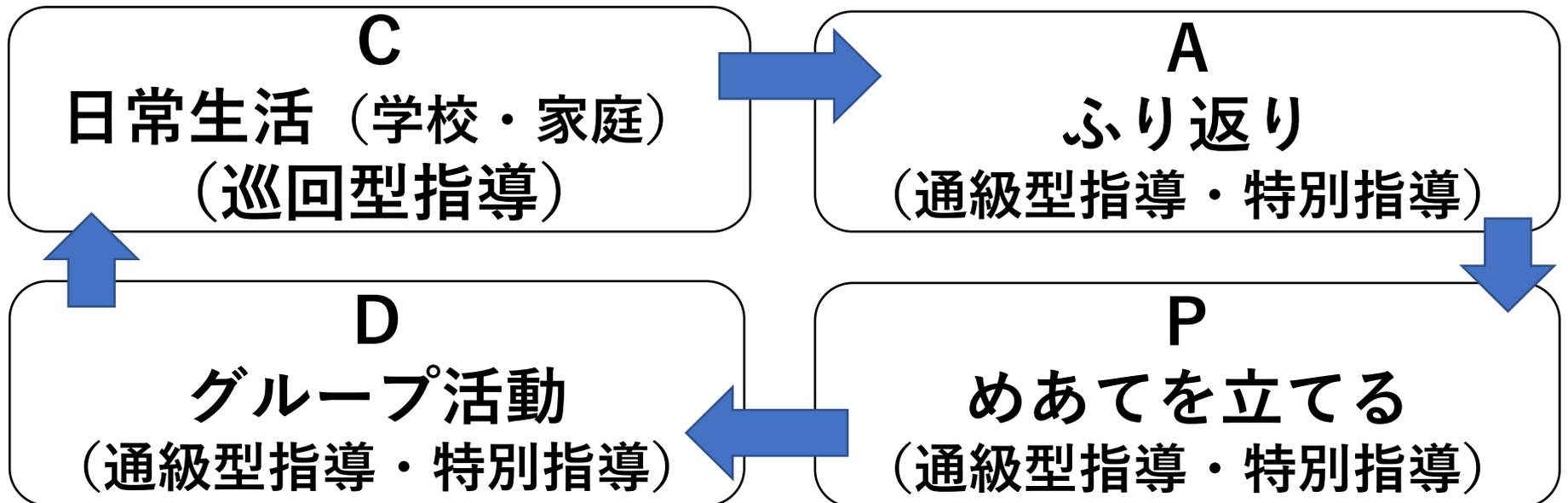
本人が主体となって「**自分のめあて**」を立て、
生活の中で、**PDCAサイクル**に沿って取り組む。



自分の「めあて」に取り組む

- 新しいことに挑戦する
- 友だちを注意しない
- 最後まで集中する

- プログラミングを極める
- 声の大きさに気をつける
- 返事ははいと言ってみる



Plan

自分のための学びプラン

名前 ()

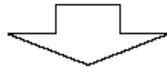
〇なりたい姿 (PLAN)

こうなりたいな

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

こうなるといいね

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



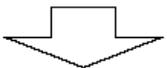
〇めあて (PLAN)

チャレンジめあて

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

アドバイスめあて

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



Do 110

今週のめあて

名前 ()

① チャレンジめあて

② アドバイスめあて



◎ 朝、先生か保護者の方に渡して、確認。

◎ 帰りか夜に、評価してもらい、受け取る。

	書く人 	コメント	パッチリ まままあ おしい 	
月 日 (月)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (火)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (水)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (木)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (金)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (土)	担任の先生 保護者 ()			
月 日 (日)	担任の先生 保護者 ()			

A児は「**いじけないで、気持ちを切り替える**」ことをめあてとして取り組んだ。嫌な事があったときに、先生に相談することができるようになり、教室から飛び出すことがなくなってきた。また、「**どんまい**」「**まっいいか**」など**気持ちを切り替える**言葉をうまく使いながら、生活できるようになってきた。

B児は「**声の大きさをマイナス15パーセントにして話す**」ことをめあてとして取り組んだ。学校生活や家庭生活において、大声で叫ぶ姿が減り、**声の大きさを調節してやりとり**ができるようになった。同学年の友達と遊べるようになった。

C児は「**返事ははいと言ってみる**」ことをめあてとして取り組んだ。相手の話を一旦受けとめることができるようになり、他者からの注意や**助言を受け入れること**ができるようになってきた。

A児は、

学びのアンケートで、「**すねる回数が減ってきた。**」と答えた。

自己理解アンケートで、自分の好きじゃないところは？の質問に、以前は「小さくて、高いところに手が届かないところ」と答えたが、「**すぐ怒る。すねる。**」と答えた。

B児は、

学びのアンケートで、通級で学ぶ理由を「**友達とコミュニケーションを楽しくできるから**」と答えた。

自己理解インタビューで、自分はどんな人だと思うか？の質問に、以前は「わからないし、考えたことがない。」と答えたが、「**算数が得意で、電車博士**」と答えた。

C児は、

学びアンケートで、「**自分のことを相談できるようになったし、相談できる人が増えた**」と答えた。

自己理解インタビューで、以前は「自分にいいところなんて一つもない」と答えたが、自分のいいところを「**先生たちと話さないといけない。自分のことをもっと知りたい**」と答えた。

①在籍校での行動の変容

発達障害のある児童に「本人参加型会議」「本人が立案する個別の指導計画」を実施し、1週間毎に自分のめあての実現にむけたPDCAサイクルに取り組むことで、

行動面で肯定的な変容が見られた。

②本人の内面の評価

また、事前事後の自己理解インタビュー及び学びのアンケートの結果比較から、**自己理解の深まり、**

学ぶ意欲の向上の成果が得られた。

まとめ

1 通級型指導

→自己実現にむけた報連相の時間

2 巡回型指導

→**担任との協働**・本人視点の日常の情報収集

3 専門分野の特別指導

→本人の**強み（好き・得意）**の探究

4 本人参加型会議

→本人の**思い・願いを共有**→セルフアドボカシー

5 本人が主体の個別の指導計画PDCA

→「自分のための**学びプラン**」

『**学びの意志**』を育てる！！

自ら学びに向かう力を高め、
社会に貢献できる自己の実現を目指し、



人や社会と **つながり、かみあう**

子どもたちの姿を支援していきたいです。